

平成 21 年度事業報告

(平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日まで)

実施事業の概要

当財団は、横浜市の文化行政と密接な連携を図りつつ、歴史及び文化財に関する各種の事業を実施し、さまざまな事業改善を行ってきました。

当年は横浜開港 150 周年とあって、開港資料館の「港都横浜の誕生」をはじめとして、各館で開港記念を銘打った企画展や講演会・シンポジウムなど多彩な催しを繰り広げました。また財団の専門職の総力を挙げて図説『横浜 歴史と文化』を編集し刊行を実現しました。これらの企画は幸いに好評を得たものが多く、当年度の目標は、一部不十分な部分がありますが、相当程度達成できたものと考えています。

また次年度における新公益法人への移行、第 2 期指定管理者応募に向けて、準備を進めてきました。

P D C A サイクルによる評価・改善システムも軌道に乗り、前年度につき、教育委員会及び財団依嘱の二つの外部評価委員会から、おおむね良好という評価をいただきましたが、当年度は、より厳格な規準に改めて自己評価を実施しました。

実施した事業

一般会計事業

- 1 財団本部事業
- 2 埋蔵文化財整備事業
- 3 埋蔵文化財発掘事業
- 4 市史資料室事業
- 5 史跡等保存事業
- 6 開港 150 周年記念事業
- 7 歴史博物館事業
- 8 開港資料館事業
- 9 都市発展記念館事業
- 10 ユーラシア文化館事業
- 11 三殿台考古館事業

特別会計事業

- 12 歴史博物館収益事業
- 13 開港資料館収益事業
- 14 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業

一般会計事業

1 財団本部事業

1 財団本部事業（寄附行為第4条第8号）

21年度も、横浜市の指定管理者として財団独自の事業評価・改善システムを実施することで、より効率的な事業改善に取り組みました。また、「横浜開港150周年」を迎え、各館の連携強化を図るとともに、150周年記念事業の共同広報など、記念事業、関連事業の実施のサポートを行いました。

また、財団施設の安定的な運営を図るため、専門職員の採用を行うとともに、人材の確保、組織の強化・活性化を図るため嘱託職員の固有職員への転換や有期契約職員に対する正規職員の登用試験を実施しました。

本部事業としては、横浜市等から埋蔵文化財整理事業・普及啓発事業・発掘調査事業・諸施設管理・市史資料等保存活用業務を受託しました。

さらに、公益法人改革に対する対応や次期指定管理の募集に対する対応に取り組みました。

各事業報告

財団管理施設の事業調整や、財団独自の事業評価・改善システムの実施、財団自主研修の実施、理事会・評議員会の開催、外部評価委員会の開催、職員の人事労務・福利厚生管理のほか、八聖殿郷土資料館や市内各史跡の管理を行いました。

- (1) 財団管理施設の事業調整
- (2) 財団事業自主評価・改善システムの実施
- (3) 職員研修の実施
- (4) 理事会・評議員会の開催
- (5) 外部評価委員会の開催
- (6) 職員の人事労務・福利厚生管理
- (7) 八聖殿郷土資料館の管理運営、市内各史跡の管理
- (8) 共同広報の実施 メルマガ「よこはま歴史かわら版」の配信など
- (9) 財団施設案内の作成（1,000部作成）
- (10) その他本部事務

(注) なお、本頁以降、新規、追加、さらには重点的に取り組んだ事業については、「事業内容」欄等をゴシック文字で表記しています。

2 埋蔵文化財整備事業

1 埋蔵文化財整備事業（寄附行為第4条第1・5号）

埋蔵文化財センターでは、港北ニュータウン開発に伴う発掘調査で出土した遺物・遺構の整理を行い、成果を報告書にまとめました。

なお、埋蔵文化財センターは、平成21年7月から10月にかけて移転のための準備、および移転作業を行い、**10月末をもって都筑区勝田町から栄区野七里に移転しました。**

（1）遺物整理・調査研究

項 目	事 業 内 容
北川表の上遺跡の整理 (6/6年次)	原稿執筆・編集作業を実施し、 報告書を刊行した。 先土器・弥生・古墳・奈良・平安時代にわたる複合遺跡。 現在地：都筑区早渕3丁目（旧港北区新吉田町）
大榑杉山神社遺跡の整理 (2/2年次)	実測図作成、トレース、写真撮影、原稿執筆等を実施。 平成22年度に報告書を刊行する。 縄文時代中期・弥生時代中期集落ほか。 現在地：都筑区中川中央1丁目（旧港北区中川町）
大原遺跡の基礎整理 (2/2年次)	出土品接合・復元、図面等記録類の基礎整理作業を実施。 縄文時代中期・弥生時代後期・平安時代集落跡ほか。 現在地：都筑区早渕1丁目（旧港北区新吉田町）
加賀原遺跡の基礎整理 (2/2年次)	出土品接合・復元、図面等記録類の基礎整理作業を実施。 縄文時代中期集落ほか。 現在地：都筑区加賀原1丁目（旧緑区池辺町）

（2）報告書刊行

項 目	事 業 内 容
北川表の上遺跡	遺物整理・調査研究の成果を報告書として刊行した。 作成部数 300部

（3）資料保存・整理

項 目	事 業 内 容
資料デジタル化	フィルムのデジタル化と整理を実施し、資料保存と活用の利便性向上を図った。35mmカラーリバーサルを優先し、利用頻度の高いものを選定して実施した。 また、併せて測量図面のデジタル化を試行し、平成22年度からの実施に向けた準備を行なった。 デジタル化点数：4,250カット（大塚遺跡など12遺跡）

（4）緊急雇用創出事業

項 目	事 業 内 容
出土品保管・再整備 (緊急雇用創出事業)	収蔵・保管されている出土品について整備し、保管状況の改善を図るとともに、データ化を進め活用の利便性をはかる。平成21年度は、政府の緊急雇用創出事業として、元町貝塚（中区）・杉田東漸寺貝塚（磯子区）の貝などの自然遺物を中心に整理した。

	実施期間：6月～8月 整理数：土のう袋398袋 雇用人数：7人（延べ364人）
--	--



遺物整理



緊急雇用創出事業



体験学習

2 普及啓発事業（寄附行為第4条第2・5号）

港北ニュータウン開発に伴う発掘調査及び公共事業等に伴う発掘調査により出土した遺物・遺構の整理を進め、その成果の市民への還元及び埋蔵文化財保護への市民の関心を高めるため、広報紙を発行し、歴史博物館や埋蔵文化財出土地域での展示・講演会などを実施しました。

（1）広報

項 目	事 業 内 容
『埋文よこはま』の刊行	市内の埋蔵文化財情報を市民へわかりやすく発信 埋文よこはま20・21（年2回）各11,000部
インターネットによる情報公開	財団開設のホームページ上で、市内の埋蔵文化財情報や、Q&A、財団各施設の情報提供、アンケート調査を行った。 アクセス件数14,425件 （前年度9,037件）

（2）講座・講演会等の開催

企画展名/開催期間	事 業 内 容
考古学入門講座 「今と昔をくらべよう」 H21.7.27(月)・7.28(火)	小学5年生以上を対象に、考古学の初級講座を午前と午後の一日コースで実施した。 午前は、発掘調査で出土した遺物に実際に触れながら、むかしと現在の道具の相違について学んだ。 午後は、土器の文様付けや拓本取りなど体験学習を行なった。 今年度は同一メニューで2日間開催した。 参加料：1,000円 参加者：5人 会場：山内地区センター
講座「横浜の考古学」 H21.11.20(金)・11.27(金) 全4回	本年度は横浜開港150周年を意識して、「海辺の生活 - 氷河期から明治まで -」をテーマに、連続講座を実施した。今年度は1日2講座を開催し、2日間で全4講座とした。 11/20 第1回 「気象の大変動—氷河期から縄文海進へ—」石井 寛 第2回 「縄文の海と人びとの生活」石井 寛

	11 / 27 第3回 「弥生・古墳時代の半農半漁村落—横浜の海浜集団」 古屋紀之 第4回 「神奈川台場と外国人居留地」 鈴木重信 会 場：横浜市歴史博物館 参加料：2,000円 参加者：122人
「横浜の遺跡展」 関連講座 H21.12.19 (土)	「横浜の遺跡展」 関連事業として、講演会を実施した。 「科学の力で古代を探る！—北川表の上遺跡の発掘成果と化学分析—」 ・「北川表の上遺跡の発掘成果」 山田光洋 ・「X線CTスキャン画像から見た古代の食料事情」 佐々木由香 (株式会社パレオラボ) ・「赤い粉末の謎に迫る—鉄関連遺物の分析—」 伊藤 薫 (株式会社日鐵テクノロジー) 会 場：横浜市歴史博物館 参加料：500円 参加者：63人
体験学習 定期開催： 1日2回開催 計16回	偶数月の最終土曜日と学校の夏休み期間中を定期開催日として、土器文様の拓本とりと勾玉づくりをセットとする体験学習教室を開催した。 参加料：400円 参加者：199人 定期開催のほか、特別開催や出前での開催を実施した。 特別開催：全4回 参加者：36人 出前開催：全5回 参加者：153人 6 / 20 睦コミュニティハウス 参加者：19人 7 / 30 山内地区センター 参加者：5人 8 / 8・9 栄区民文化センターリリス 参加者114人 8 / 25 青葉台コミュニティハウス 参加者：15人
講師派遣 全11回 参加者：合計343人	6 / 28 (日) 鈴木重信 会場：軽井沢コミュニティハウス 軽井沢コミュニティハウス 横浜開港 150 周年記念講座 1 受講者：14人 7 / 5 (日) 鈴木重信 会場：軽井沢コミュニティハウス 軽井沢コミュニティハウス 横浜開港 150 周年記念講座 2 受講者：11人 10 / 17 (土) 山田光洋 会場：横浜市歴史博物館 神奈川県考古学会 第33回神奈川県遺跡調査・研究発表会 12 / 8 (火) 鈴木重信 会場：大塚・歳勝土遺跡ほか 神奈川県私立中学高等学校協会研究部社会科専門委員会 研修会、現地解説

	参加者：16人 12/16（水） 石井 寛 会場：横浜市立城郷小学校 土器の出土場所の視察、学習サポート 参加者：32人 12/28（月） 鹿島保宏 会場：笠間地域ケアプラザ 栄区地域史研究会月例会講演 受講者：23人 1/20（水） 古屋紀之 会場：東京都埋蔵文化財センター 東京都埋蔵文化財センター文化財特別講演会 受講者：122人 1/21（木） 鈴木重信 会場：戸塚地区センター 区制70周年・開港150周年記念 見つけよう戸塚スタン プラリー&講演会実行委員会、講演会 受講者：70人 1/23（土） 鈴木重信 会場：埋蔵文化財センター 栄区役所区政推進課主催「さかえなんでも知り隊ー歴史 知り隊ー」、展示解説 参加者：33人 2/6（土） 鈴木重信 会場：仲町台地区センター 区制15周年 仲町台地区センター歴史講座1 受講者：12人 2/13（土） 鈴木重信 会場：仲町台地区センター 区制15周年 仲町台地区センター歴史講座2 受講者：10人
埋蔵文化財センター見学者対応	埋蔵文化財センターへ来館した市民に、センターを案内し、資 料について解説を行った。 見学者：365人

（3）展示等の開催

企画展名/開催期間	事業内容
「埋蔵文化財センターが栄区にや ってくる！」展 H21.8.3(月)～8.9(日) 会期7日	栄区民文化センターリリース主催の夏休みオープンデー「リリース の大冒険」に参加し、遺跡出土品や写真パネルを展示した。付 帯事業として、体験学習「勾玉作り（有料）」・「土器パネル」・「土 器の文様付け」を実施した。 会場：栄区民文化センター「リリース」 入場者：901人 勾玉作り参加者：114人

平成 21 年度「横浜の遺跡」展 H21. 12. 12(土)～H22. 1. 11 (日) 会期 25 日	平成 21 年度に発掘調査報告書を刊行した北川表の上遺跡を取り上げ、「再現！弥生時代集落・古墳時代集落ー北川表の上遺跡の調査成果からー」と題して実施した。関連事業として講演会を開催した。 会場：横浜市歴史博物館 観覧者：3, 357 人 また、開催中の 2 日間フローアーレクチャーを実施した。 参加者：12/20 25 人 1/11 34 人 計 59 人
--	--



「埋蔵文化財センターが
栄区にやってくる！」展



「横浜の遺跡」展

(4) 実物資料利用

項 目	事 業 内 容
発掘資料・写真資料の 貸出展示等	遺物貸出：市内小学校で常設展示 10 件
	コミュニティハウスで常設展示 1 件
	市内小学校 1 件
	郷土史団体等市民団体 2 件
	博物館等の施設 5 件
	研究者等 1 件
	写真貸出：博物館等の施設 3 件
	横浜市ほか公共機関 3 件
	写真掲載：博物館等の施設 3 件
	出版社等 9 件
	横浜市ほか公共機関 5 件

(5) 資料移管・受贈

項 目	資 料 の 内 容
資料の移管	松風台遺跡（青葉区 No. 307 遺跡）出土資料（縄文土器・石器・弥生土器ほか、整理コンテナ 109 箱・段ボール箱 3 箱・図面ファイル・写真ファイル各 1）を日本窯業史研究所より移管された。
資料の受贈	源東院貝塚（都筑区 No. 287 遺跡）付近出土資料（縄文中期石棒 1 点）を久保田伸男氏より寄贈された。
	港北区 No. 75 遺跡出土資料（ガラス小玉の鋳型 2 点、アメリカ式石鏃 1 点）を松尾理吉郎氏より寄贈された。

(6) 施設間連携

項 目	事 業 内 容
横浜ユーラシア文化館との連携事業	横浜ユーラシア文化館との連携事業として、口琴コンサート等を共催した。 10/11 口琴：ワークショップとレクチャーコンサート 会場：シルクロード舞踏館 10/12 口琴：音の広がり—Jew's Harp〜Sound Around EurAsia〜— 会場：横浜開港記念会館 参加者：224人
横浜都市発展記念館・三殿台考古館との連携事業	横浜都市発展記念館・三殿台考古館との連携事業として、横浜都市発展記念館企画展「西洋館とフランス瓦ー横浜生まれの近代産業ー」を共催した。 会場：横浜都市発展記念館 会期：1/23～5/9 入館者：1,157人（平成21年度）

3 埋蔵文化財発掘事業

1 発掘調査事業（寄附行為第4条第3号）

文化財保護法に基づき、埋蔵文化財の発掘調査及び発掘調査の成果を整理し、報告書を刊行する業務を行いました。

(1) 発掘調査

事業略名称	遺 跡 名	所 在 地	調査区分	委 託 者
三溪園内苑流れ保存修理に伴う確認調査		横浜市中区本牧三之谷	確認調査	(財)三溪園保勝会
市立金沢高校整備事業に伴う立合い調査	市立金沢高校内貝塚	横浜市金沢区瀬戸	立合い調査	横浜市教育委員会

(2) 整理報告書作成

事業略名称	遺 跡 名	所 在 地	委 託 者	備 考
三溪園内苑流れ保存修理に伴う確認調査		横浜市中区本牧三之谷	(財)三溪園保勝会	資料整理・原稿執筆
瀬戸神社旧境内地内遺跡の報告書編集	瀬戸神社旧境内地内遺跡	横浜市金沢区瀬戸	横浜市教育委員会	報告書の編集



三溪園内苑流れの確認調査

4 市史資料室事業

1 市史資料室事業（寄附行為第4条第7号）

横浜市総務局が所管する横浜市史資料室の所蔵資料の保存活用事業（平成19年度から開始）について、引き続き、資料収集・整理・保存、資料公開、普及啓発業務を行いました。

（1）資料の収集・管理・公開

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈 23 件 3,178 点 写真資料収集 170 枚	主な収集資料：米国国立公文書館写真ほか
図書・刊行物	約 4,000 点	図書（約 2,000 冊）・行政刊行物（約 2,000 冊）の収集・整理を行った。
資料の移管	3 件 443 点	移管資料：歴史的公文書
資料のマイクロ化	マイクロフィルム 171,059 コマ プリント 65,495 枚	公開用の複製資料を作製するため、資料をマイクロフィルム撮影するとともに、一部の資料については、プリント製本を用意した。そのほか、写真資料の複写・スキャニングによりデータ化を行った。
資料整理		目録を作成するとともに、一部の資料については、公開に向け、再整理を行った。
資料保存		中性紙封筒への封入及び再整理資料の中性紙封筒への入れ替えを行った。
資料公開		資料閲覧・複写・レファレンス等を行った。
資料貸出	貸出件数 134 件	出版物等掲載のために写真の貸出（113 件）を行うとともに、「横浜の空襲と戦災」関連のパネル、及び資料の貸出（21 件）を行った。（計 134 件）

（2）利用状況

項 目	平成21年度	平成20年度	平成19年度（注1）
展示見学者（人）（注2）	6,282	5,700	1,519
入室者数（人）	1,105	1,139	419
資料閲覧室利用者数（人）（注3）	233	191	38
複写申込件数（件）	331	347	84
レファレンス件数（注4）	96	189	91
電話レファレンス件数（注5）	279	153	31

（注1）平成19年度は、平成20年1月9日のオープン後の利用状況

（注2）市史資料室内展示コーナーの見学者数

（注3）資料閲覧室は、一次資料専用の閲覧室であり、開架資料の閲覧室とは別室

（注4）レファレンス件数は、来室者からレファレンスを受け付けた件数

（注5）メールレファレンス含む

(3) 普及啓発事業

項目	事業内容
『市史通信』の刊行	情報誌として『市史通信』(No. 5～No. 7) を刊行 (各 5,000 部) した。資料提供者 (機関)、及び関係者 (機関) へ発送するとともに、市民に配布した。また、同一内容の PDF ファイルをホームページ上でも公開した。
写真集『昭和の横浜』の刊行	開港 150 周年を記念して、横浜市が刊行した写真集『昭和の横浜』(部数 3,000 部) について、所蔵写真を中心に昭和の横浜の姿を示す代表的な写真を選び、解説と写真の説明を加えて版下を作成した。
展示コーナー	市史資料室内展示コーナーにて、所蔵資料の紹介・展示を随時行い、「メジャーリーガーのサインボール」「朴烈の書」など新収蔵資料の展示を行った。
展示会の開催	写真パネル展「昭和の横浜」 平成 21 年 7 月 7 日 (火) ～ 9 月 6 日 (日) 写真集『昭和の横浜』刊行にあわせて、掲載写真の一部を紹介した。
	震災復興 80 周年記念企画展示会「横浜・関東大震災の記憶」 平成 22 年 2 月 1 日 (月) ～ 3 月 28 日 (日) 震災復興 80 周年を記念して、新たに寄贈された前川写真館の写真を中心に紹介した。
講演会の開催	シンポジウム「横浜・関東大震災の記憶」 平成 22 年 2 月 13 日 (土) 会場：横浜市中心図書館 基調講演 今井清一氏、報告 松本洋幸・吉田律人・岡田直、コメンテーター 北原糸子氏、司会 寺寄弘康氏 参加者：180 人

5 史跡等保存事業

1 八聖殿郷土資料館事業 (寄附行為第 4 条第 7 号)

(1) 横浜市八聖殿郷土資料館事業

横浜市の歴史・文化財関連諸施設の維持管理及び運営を行いました。

項目	事業内容
連続講座の開催	開港 150 周年に焦点を当て、本牧地域の歴史を交えて歴史講座を開催した。 毎月第 3 土曜日開催 (全 12 回) 参加料：無料 参加者：356 人
集中講座の開催	月 1 回の連続講座に参加できなかった市民を対象に、連続講座 3 回分を集約した講座を開催した。 7・10・1 月第 2 土曜日、3 月第 4 土曜日開催 (全 4 回) 参加料：無料 参加者：63 人

歴史散歩の開催	連続講座で取り上げた地域を中心に、実際に現地へ赴いて、散策しながら地域の歴史について解説した。 第1回 10/10(土) 鎖国下の漁村を歩く 旧大師河原村の周辺を散策 参加者：29人
	第2回 2/27(土) 政治都市・神奈川宿を歩く 3/12(土) 滝の川を中心とする神奈川宿を散策 参加者：37人
学校連携	近隣の小学校教員に資料館を紹介し、学校による資料館利用を検討する研究会を実施した。 8/22(土) 中区の近隣小学校 6校
展示更新ほか	2階「農村の暮らし」をテーマにした展示物を入れ替えし、説明文をリニューアルした。また、展示物の解説シートの種類を追加した。
八聖殿郷土資料館ブログの開設	ホームページの施設紹介のページとは別に、八聖殿郷土資料館周辺の情報をブログ形式で紹介し、郷土資料館の周知に努めた。

(2) 横浜市八聖殿郷土資料館入館者の推移

項 目	平成21年度	平成20年度	平成19年度
横浜市八聖殿郷土資料館(人)	10,238	9,366	8,009

2 史跡保存事業（寄附行為第4条第7号）

管理対象施設等	事業内容・所在地など
国指定史跡称名寺境内	史跡の維持管理 所在地：金沢区金沢町
県指定史跡稲荷前古墳群	史跡の維持管理 所在地：青葉区大場町
県指定史跡市ヶ尾横穴古墳群	史跡の維持管理 所在地：青葉区市ヶ尾町
上行寺東遺跡復元整備地	史跡の維持管理 所在地：金沢区六浦二丁目

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
本部事業	「開港150周年」を迎え、共同広報を実施するなど記念事業等の着実な実施を図りました。 また、人員体制の整備については、課題の解決や職員の転換など積極的に取り組みました。さらに、規定の整備を進めるとともに、公益法人改革や次期指定管理に向けた取組を実施しました。	A
埋蔵文化財事業	港北ニュータウン所在遺跡について、予定通り整理報告作業をすすめ、一遺跡の報告書を刊行しました。また、 保管資料の再整備についても、記録資料のデジタル化が昨年度を上回る成果を収めたほか、新たに緊急雇用創出事業として、貝塚から出土した自然遺物の整理・データ化を行い、保管状況を大幅に改善することができました。	A
普及啓発事業	区民文化センター・地区センターの主催事業に参加するなど、 外部の施設との連携事業や講師の派遣を積極的に行いました。 また、講座「横浜の考古学」の集中開催や、体験学習の特別開催を実施し、 より多くの市民が参加できるような開催日の設定を試み、参加者が前年度実績の約4割増となりました。	A
発掘調査事業	昨年度に引き続き、三溪園整備事業に伴う試掘調査を実施しました。また、 当初予定になかった教育委員会からの報告書編集作業を受託したり、立合い調査に協力するなどの対応をしました。	A
市史資料室事業	閲覧室利用者数は見込数に達しませんでした。展示見学者は見込み数の倍近くになっています。なお、事業計画の目標数値の設定が現状に即したものとなっていなかったため、平成22年度から見直しを行っております。	B
諸施設管理運営事業	八聖殿郷土資料館では、20年度に続き入館者が増加しました。	A

(注) 評価について

各事業について、平成21年3月27日財団理事会・評議員会で決定した事業計画と比較した事業進捗・達成度合により、次の基準で自己評価を記載しております。

また、評価基準については、平成21年6月の理事会・評議員会のご指摘を受けて、見直しております。

S	目標を大きく上回る成果が上がった。新たな取り組みなどを行い予定より大幅に進めた。 定量評価：目標値 120%以上達成
A	目標を上回る成果が上がった。新たな取り組みなどを行い予定より進めた。 定量評価：目標値 105%以上 120%未満達成
B	目標通りの成果が上がった。予定通り進めた。 定量評価：目標値 95%以上 105%未満達成
C	目標を下回る成果にとどまった。予定通り進めることができなかった。 定量評価：目標値 80%以上 95%未満達成
D	目標を大きく下回る成果にとどまった。予定より大幅に遅れた。 定量評価：目標値 80%未満

6 開港 150 周年記念事業

「横浜開港 150 周年」を迎え、ペリー上陸の地・日米和親条約締結の地に立ち、開港期からの横浜の歴史資料を保管している開港資料館をはじめ、歴史博物館・都市発展記念館・ユーラシア文化館・埋蔵文化財センターなど横浜市の歴史、文化財施設を運営する当財団は、その総力を挙げて、「開港 150 周年記念事業」に取り組みました。

各事業報告

1 開港 150 周年記念事業（寄附行為第 4 条第 2・5 号）

開港 150 周年を記念し、当財団の職員の専門性や所蔵・保有する資料等を生かし、図書の刊行、講演・講座・シンポジウムなどの記念事業および関連事業を実施しました。さらには、コンサートなど市民参加型、市民とともに楽しむイベントの数々を実施しました。

項目	事業名称	事業実績等	主体	備考
企画展	開港 150 周年記念企画展	各館にて、次の記念展示を行った。 また、講座等の関連事業を行った。 〈歴史博物館〉 特別展「海賊-室町・戦国時代の東京湾と横浜-」ほか計 5 回 〈開港資料館〉 「港都横浜の誕生」ほか計 3 回 〈都市発展記念館〉 「横浜建築家列伝」ほか計 2 回 〈ユーラシア文化館〉 「東西交流の証」	各施設	詳細は各施設事業参照
シンポジウム等	近代横浜を生きた女たち	横浜郷土史団体連絡協議会&はまぎん産業文化振興財団共催のシンポジウムを行った。	開港資料館	
	神奈川湊から横浜港へ	横浜郷土史団体連絡協議会共催のシンポジウムを行う。同時に歴史博物館、開港資料館のエントランスホールで連絡協議会に関するパネル展を開催した。	歴史博物館、開港資料館	
ツアー	開港場新潟と北前船の湊を訪ねて	開港五港の一つ、新潟を見学するツアーを実施した。	歴史博物館	
出版等	「横浜 歴史と文化」刊行	財団学術専門職員が総力を挙げて、横浜の通史を紹介した。	総務課	

	ハマの中華街 150 年	中華街との協働で、記念出版物を作成した。	開港資料館	
	DVD「神奈川ニュース」の制作	昭和 20 年代から 40 年代にかけてのニュース映像の普及版 DVD を順次、制作・販売した。	都市発展記念館	
イベント	スタンプラリー	歴史を学びながら開港資料館・都市発展記念館・歴史博物館を巡るスタンプラリーを実施した。	総務課	
	たまくすプロジェクト	環境創造局「150万本植樹」との協働事業。たまくすの苗の育て親を市民から公募し、植樹した。	開港資料館	
	都筑アートプロジェクト2009「ニュータウン・ピクニックー遺跡を巡るアートー」	大塚・歳勝土遺跡公園内にある都筑民家園と共催で、遺跡公園に新進気鋭の現代アート作家の作品を野外展示し、原始と現代のコラボを楽しんでもらった。アートフリーマーケットも行った。	歴史博物館	
	開港 150 周年記念フェスタ	6 月 6 日（土）7 日（日）全館無料で各種催しを行った。大塚・歳勝土遺跡公園では野焼きを行った。	歴史博物館	
	4 区のチェンジ！ 大変貌展ー横浜市編入 70 年の歴史	博物館＋北部 4 図書館合同郷土展 「横浜市北部地域の 150 周年」 都筑区・青葉区・港北区・緑区の各図書館と博物館の協働で、資料の巡回展示を行った。	歴史博物館	
	横浜 F マリノス展	横浜 F マリノスとの協働でミニ展示を行った。	歴史博物館	
	エントランスホールコンサート	7 月 4 日（土） ～横浜開港 150 周年を記念して～ ピアノ・ソプラノ・フルートによるコンサート	歴史博物館	
	吹奏楽と講演	幕末の横浜で英国駐屯軍などが演奏した音楽を神奈川フィルハーモニーの演奏で、解説とともに紹介した。	開港資料館	
	「URANIWA Square」 ＋「日本大通りタイムストリート」	中庭を利用して市民参加型のイベントを行った。	都市発展記念館、ユーラシア文化館	

	「華やかなりし時 山手の洋館パネル 展」	横浜市緑の協会との共催事業。企画 展「横浜建築家列伝」の関連企画と して、山手西洋館の歴史をテーマに したパネル展示を山手234番館に て8月下旬に開催した。	都 市 発 展 記念館	
	「開港記念会館を 知る講座」	中区・横浜開港資料館との共催事業。 開港記念会館の歴史をテーマにした 連続講座と、ジャックサポーターズ ガイドによる建物見学。6月実施。 全3回。	都 市 発 展 記念館	
	コンサート「音のひ ろがり：ユーラシア 東西交流」(仮称)お よび参加型イベント	ユーラシア全域に広がる楽器「口琴」 を紹介。「2009 日澳修交 140 周年」に ちなみ、オーストリア口琴奏者と市 民演奏家の初共演も行った。	ユ ー ラ シ ア 文 化 館・埋蔵文 化財セン ター	
	さんとの大コンサ ート	岡村小学校の体育館を会場にしてコ ンサートを開催した。	三 殿 台 考 古館	

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
開港 150 周年記念 事業	記念出版については、財団の総力を挙げて取り 組み、予定どおり出版できました。 関連企画展については、入館見込者数 113,000 人のところ実績が 111,985 人で達成率 99%と ほぼ目標を達成しました。	B

7 歴史博物館事業

横浜市歴史博物館は、開港に至るまでの市域の歴史を「人々の生活」の視点から解明し、市民が「ふるさと横浜」の歴史と文化に親しみ、学ぶことに寄与するため、高い専門性に裏付けられた事業を進めるとともに、地域や学校との連携を一層深め、市民の期待や要望に即した幅広い活動を目指し、本年度も各種事業に積極的に取り組みました。

博物館事業の根幹となる資料の収集・保管・整理、資料の修繕・燻蒸等は着実に実施しました。また調査研究事業も8本が行われ、その成果は講座・講演会、企画展の開催に活用されました。

企画普及事業では、7本の展覧会を開催する一方で、学校団体による利用促進のための月曜日開館、小学校への出前授業・出張土器焼き体験や、集客イベントとしての学芸員による常設展示解説、収蔵資料ミニ展示と解説などを実施しました。また、市民協働では、地元の郷土史の会や企業との連携、遺跡公園ガイドボランティアの活動に加えて、**昨年度試行した活動支援ボランティアの活動も新たに始まりました。**

開港150周年、都筑・青葉区制15周年、開館15周年を記念し、海や開港期、都筑・青葉地域の歴史等を題材とした特別展・企画展を6本開催するとともに、横浜市郷土史団体連絡協議会、横浜開港資料館と連携して記念フォーラムや歴史探検など各種のイベントを実施しました。また青葉区制15周年の記念誌『青葉のあゆみ』の刊行に協力するなど、各種記念事業に積極的に参画しました。

施設の管理運営面では、大規模施設長寿命化計画に基づき、屋根及び外壁タイル修繕工事を行いました。

これらの事業を通して、施設の有効利用と認知度・顧客満足度が上がり、当初設定した目標もほぼ達成することができました。

各事業報告

1 資料収集保管事業（寄附行為第4条第1号）

横浜市歴史博物館における展示・教育・普及・閲覧公開等の博物館活動に活用する資料を、購入・複製・マイクロ撮影等により収集し、分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、資料の修繕・燻蒸を行いました。

（1）資料の収集・管理

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈 635 件 681 点 寄託 0 件 0 点	主な収集資料：軍事郵便、土鈴など郷土玩具、箱ジャッキ・ホーロー看板、徽章類、絵馬・郷土玩具コレクション ほか
実物資料の購入	10 件 64 点	主な収集資料：管領鎌倉九代記（版本）、平家物語（版本）、小栗実記（版本）、横浜鉄道海岸之図、石渡江逸「子安一の宮神社」、ほか

レプリカ製作	2 件 2 点	主な資料：関東管領上杉清方奉行人連署奉書、市川橋遺跡出土「武蔵国関係漆紙文書」
マイクロ撮影	3,612 コマ(複製9本、製本22冊)	主な資料：前田ムラ家文書、高野カツ家文書、金沢藩土萩原家文書
資料の修繕・保存	3 件 3 点	主な資料：赤羽刀の研磨(刀 無銘1振)、オヒョウゴ(地神講掛軸)の補修
資料の整理活用(収集資料のデータ入力)	2,255 件	実物資料・図書文献資料のデータ入力を行った。
資料の整理活用(収集資料の貸出)	6 件 87 点	他の博物館・資料館での企画展・特別展に本館所蔵資料の貸出を行った。
図書資料の公開	4,103 件	図書閲覧室で、文献資料の公開及びレファレンスを行った。
写真資料の撮影・整理	撮影数 800 カット 新規登録件数 750 件	常設展示や企画展・特別展に関する資料及び収蔵資料の撮影と整理・登録を行った。
画像資料の貸出	貸出件数 69 件 281 点	他の博物館や公共機関、出版社などへの写真資料の貸出を行った。

(2) 資料収集内訳

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
絵 画 (点)	4 (6)	— (—)	— (48)	— (—)	4 (54)	1,920 (1,916)
工芸品 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	132 (132)
彫 刻 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	20 (20)
書 跡 (点)	— (1)	— (—)	— (—)	— (—)	— (1)	46 (46)
典 籍 (点)	60 (1)	— (—)	— (—)	— (—)	60 (1)	3,919 (3,859)
古文書 (点)	— (23)	1 (1)	— (1,601)	— (—)	1 (1,625)	31,165 (31,164)
古記録 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	39 (39)
絵 図 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	159 (159)
歴史資料 (点)	— (—)	— (—)	310 (2,456)	— (—)	310 (2,456)	10,958 (10,648)
考古資料 (点)	— (—)	1 (1)	— (1)	— (—)	1 (2)	1,028 (1,027)
民俗資料 (点)	— (—)	— (—)	371 (44)	— (—)	371 (44)	7,845 (7,474)
図書文献資料 (点)	146 (100)	— (—)	1,476 (2,452)	— (—)	1,622 (2,552)	55,304 (53,682)
合 計	210 (131)	2 (2)	2,157 (6,602)	— (—)	2,369 (6,735)	112,535 (110,166)

※ () 内は、前年度点数。

(3) 図書閲覧室利用状況

項 目	平成21年	平成20年	平成19年
閲覧室利用者数(人)	7,520	8,131	9,774
複写申込件数(件)	925	531	708
複写枚数(枚)	7,000	6,019	9,017
レファレンス件数(件)	491	392	461

(4) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	燻蒸庫を使った二酸化炭素燻蒸のほか、資料に則した簡易燻蒸も合わせて行った。
環境検査	館の環境を把握するため、定期的に昆虫類モニタリング、菌類測定、塵埃測定、光学的測定を行った。

(5) 資料保管施設の管理

保管施設	保 管 資 料
横浜市歴史博物館収蔵庫(1,901 m ²)	原始・古代から近現代までの考古資料・歴史資料・民俗資料。

2 調査研究事業(寄附行為第4条第1号)

収集資料の整理や、企画展や講座・講演会の基礎的資料収集のための調査研究・資料整理を行いました。

(1) 基礎的調査研究1: 収蔵資料に関する調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
縄文時代漁労具の研究(1/2年次)	資料の豊富さに比して、必ずしも研究が進展していない、関東地方の縄文貝塚出土の銚頭・釣針などの骨角製漁労具に関する集成・分析のため、漁労具の集成・資料の観察とデータ分析・検討作業を行った。
誠拙周樗関係資料の研究(2/3年次)	誠拙資料とともに古月派の関係資料も収集し、近世後期に横浜で活躍した禅僧たちの事績を明らかにすることを目的として、本年度は、昨年に引き続き、誠拙及び古月派に連なる臨済禅僧の資料の所在確認、また当館所蔵の誠拙関係資料の調査を行った。
軍記物語の研究(2/3年次)	鎌倉時代の承久の乱をテーマにし、その時代の武士たちの活躍をえがいた当館所蔵の軍記物語「北条太平記」について、当館蔵「鎌倉殿中以下年中行事」や他館所蔵の類本との比較検討を行った。

(2) 基礎的調査研究2: 地域資料に関する調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
杉山神社関係資料の収集と研究(3/3年次)	杉山神社に関する古代からの史料を収集、検討することにより、各時代における神社の位置づけを明らかにすることを目的に、本年度は、杉山神社に関係するこれまでの研究の整理・検討をおこ

	なうとともに、式内社の論社となっている杉山神社に関する考察を行った。 3年間の成果は、調査報告Ⅴ○Ⅰ. 4～6に掲載し、市民に公開した。
「香蔵院珎祐記録」の基礎的研究 (3／3年次)	室町時代には鶴岡八幡宮の塔頭のひとつであり、横浜市神奈川区の神奈川湊付近に所領を持っていたと考えられる香蔵院の院主珎祐の記録を採り上げ、この資料を熟読し、室町時代の横浜市域の鶴岡八幡宮領の様相の一端を明らかにした。 3年間の成果は、調査報告Ⅴ○Ⅰ. 4～6に掲載し、市民に公開した。
武州金沢藩に関する基礎資料の分析 (3／3年次)	当館所蔵の武州金沢藩士萩原家文書中に含まれる同藩藩庁文書を分析することで、同藩の近世後期～明治初年の実態を検討した。本年度は、武州金沢藩士萩原則嘉の嘉永5年日記の解読を行い、前年度に解読・分析を行った嘉永4年日記とあわせて、嘉永年間における金沢陣屋・藩士家の年中行事の概要を明らかにした。 3年間の成果は、調査報告Ⅴ○Ⅰ. 4～6に掲載し、市民に公開した。
船釘の比較研究 (2／3年次)	和船の建造に欠かせない船釘について、横浜市と他地域との差異について、種類、製造、地域差などの視点から比較研究するため、本年度は木曽川流域の調査・ヒアリングを行った。
市民協働による市域の民俗調査 (2／3年次)	市民協働事業の一環として、市民調査員（仮称）を組織し、市域の民俗調査を実施することを目指すもので、本年度は前年度講座受講者による「民俗に親しむ会」を組織し、具体的なフィールドとして鶴見川流域の現地見学を2回実施した（他に雨天中止1回）。

(3) 横浜の歴史をテーマにした調査研究：企画展開催に向けての調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
「ムラに生きる人々」に関する調査研究	22年度以降に開催する予定の企画展の検討と、基礎的な資料の調査を行った。
「人と物の流れ」に関する調査研究	22年度以降に開催する予定の企画展に関わる資料の調査、借用交渉などを行った。
「変わる横浜の形」に関する調査研究	22年度以降に開催する予定の企画展の計画立案、基礎的な資料の確認調査を行った。

(4) 資料の調査整理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
資料の整理	資料収集活動や調査研究で収集した資料・データなどの整理を行った。

3 常設展事業（寄附行為第4条第2号）

常設展示室において、収蔵資料の公開や、学芸員による解説を実施することで、積極的な集客を図りました。また、展示資料・ジオラマ類・ビデオ機器の保守点検を実施し、円滑な博物館運営を行いました。

（1）常設展示室での実施事業

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
常設展示解説	毎月末土曜日に「ラストサタデープログラム」の一環として、学芸員による常設展示解説を行った。 参加者：260名（全12回）
収蔵資料ミニ展示	7・8・9月と1・2・3月の6回、各時代の収蔵資料をスタディサロンで展示し、各最終日に解説を行った。 解説参加者：100人（全6回）

（2）常設展示室観覧者の推移

	有料観覧者（人）				無料観覧者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	大人	高大	小中	計					
21年度	12,129	1,357	11,944	25,430	48,615	74,045	96.8%	311日	238
20年度	14,084	1,331	14,188	29,603	46,875	76,478	100.5%	311日	246
19年度	16,157	1,236	14,444	31,837	44,243	76,080	84.0%	309日	246

4 企画普及事業（寄附行為第4条第2・4・5・6・8号）

常設展示を補うテーマや新たな調査研究の成果に基づく企画展示を開催しました。同時に、市民が横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらえるように体験学習や歴史講座等を開催し、生涯学習活動を支援しました。

また、地域・学校や市民ボランティアと連携した事業や、施設の有効利用と認知度・顧客満足度を高めるための事業を実施しました。

（1）企画展・特別展の実施

画展名/開催期間	観覧料	観覧者数	目的・意図 及び 内容・成果
横浜開港 150 周年記念特別展 海賊－室町・戦国時代の東京湾と横浜－ H21. 4. 4(土) ～H21. 5. 10(日) 会期 33 日	大人 500 円 大高 300 円 小中 100 円	13,280 人 1日あたり 402 人	中世の東京湾岸では、関東に進出した北条氏と房総半島の里見氏が東京湾を挟んで対峙し、両者は海賊衆を仕立てて海上で戦った。本展覧会では、市域の湊に関わる資料と、室町から戦国時代の東京湾岸の争乱、とくに海賊衆による海戦を中心に資料を紹介した。この展覧会は 日本財団から助成金を受けた事業 。 ①フロアーレクチャー 2回 参加者53人 ②講演会 4／26（日）山内譲氏「瀬戸内海 of 海賊」 参加料500円、参加者116人 5／2（土）黒田基樹氏「東京湾をめぐる戦国争乱」、参加料500円、参加者143人

			5 / 3 (日) 滝川恒昭氏「境界の海東京湾と房総の海賊・城」、参加料 500 円、参加者 99 人 ③バスツアー 4 / 16 (木) 「里見氏の城・館山城と内房の寺社を訪ねて」、参加料 4000 円、参加者 43 人 4 / 23 (木) 「横浜港クルーズと船の科学館めぐり」、参加料 2500 円、参加者 13 人 ④東京湾海賊クイズ 展示室内で会期中にクイズを実施。 参加者 774 人 ⑤湾岸の 12 館の博物館園をめぐるスタンプラリー ⑥図録等刊行物の作成 1650 部作成 定価 1000 円、売上 800 部 ⑦小学生向け展示パネルの設置 ⑧関連図書コーナーの設置 (図書閲覧室)
開港 150 周年記念企画展パートⅠ「絵地図・浮世絵にみる開港場・横浜の風景」 H21. 5. 23(土) ～H21. 7. 5(日) 会期 38 日	大人 300 円 高大 200 円 小中 100 円	11,653 人 1 日あたり 307 人	安政 6 年 (1859) の開港前後から明治 10 年代までの開港場・横浜を対象として、横浜市歴史博物館・横浜開港資料館所蔵の絵地図・浮世絵等を展示することにより、開港期～明治初年の横浜とその周辺地域の風景の変貌を紹介した。 ①研究講座 5 / 31 (日) 「350～150 年前の横浜」 参加料 200 円、参加者 31 人 6 / 20 (土) 「絵地図・鳥瞰図にみる開港場・横浜」、参加 200 円、参加者 33 人 7 / 5 (日) 「東海道神奈川宿より横浜へ」 参加料 200 円、参加者 56 人 ②フロアレクチャー 3 回 参加者 59 人 ③図録等刊行物の作成 2000 部作成 定価 700 円、売上 523 部 ④小学生向け展示パネルの設置 ⑤関連図書コーナーの設置 (図書閲覧室)
開港 150 周年記念企画展パートⅡ「瓦版・絵巻にみるペリ来航と横浜開港」 H21. 7. 18(土) ～H21. 8. 30(日)	大人 300 円 高大 200 円 小中 100 円	4,925 人 1 日あたり 130 人	安政 6 年 (1859) の開港前後から明治 10 年代までの開港場・横浜を対象として、横浜市歴史博物館・横浜開港資料館所蔵の瓦版・絵巻・絵葉書類を展示することにより、開港期～明治初年の横浜とその周辺地域の風景の変貌を紹介した。 ①講演会 8 / 1 日 (土) 原島広至氏 (中経文庫『横浜今昔

会期 38 日			散歩』著者)「横浜絵はがきを読み解く」、参加料 500 円、参加者 57 人 ②フロアレクチャー 3 回 参加者 70 人 ③図録等刊行物の作成 1500 部作成 定価 700 円、売上 285 部 ④関連図書コーナーの設置 (図書閲覧室)
都筑・青葉区制 15 周年／横浜開港 150 周年記念 収蔵資料展「都筑・青葉の生活と歴史」 H21. 9. 12(土) ～H21. 10. 4(日) 会期 20 日	大人 200 円 大学生以下無料	1,662 人 1 日あたり 83 人	横浜が開港して以降、同地域の人々の生活を支えた都筑区・青葉区地域から寄贈・寄託された資料を中心に、開港以降横浜を支えたこの地域の生業や歴史などを紹介した。 ①研究講座 9 / 20 (日)「江戸時代の都筑郡」 参加 300 円、参加者 28 人 9 / 27 (日)「環境とくらしの変化―近代の都筑区を中心に―」、参加料 300 円、参加者 12 人 ②フロアレクチャー 4 回 参加者 28 人
横浜開港 150 周年記念、都筑区・青葉区制 15 周年記念特別展「陸の道と海の道の交差点 江戸時代の神奈川」 H21. 10. 17(土) ～H21. 11. 29(日) 会期 38 日	大人 400 円 高大 300 円 小中 200 円	5,788 人 1 日あたり 152 人	安政 6 年(1859)の開港以前における横浜市域の中心地であった神奈川地域(東海道神奈川宿・神奈川湊)の繁栄の一端を御殿・陣屋の所在地といった政治的側面と東海道や神奈川道といった陸上交通及び海上・河川交通の結節点という経済的側面から紹介した。 ①講演会 11 / 8 (日) 増田恒男氏 (司馬遼太郎記念館学芸部長)「大熊弁玉―神奈川に弁玉といはれし僧ありて―」、参加料 500 円、参加者 69 人 ②落語会 11 / 22 (日) 桂歌助氏 落語「御神酒徳利」他 1 本、参加費 1000 円、参加者 43 人 ③研究講座 10 / 24 (土)「政治拠点としての神奈川」 参加料 200 円、参加者 12 人 11 / 15 (日)「宿場町としての神奈川」 参加料 200 円、参加者 25 人 11 / 29 (日)「港町としての神奈川宿」 参加料 200 円、参加者 26 人 ④フロアレクチャー 3 回 48 人 ⑤フォーラム「神奈川湊から横浜港へ」 横浜市郷土史団体連絡協議会主催、当館・横浜開港資料館共催の市民協働事業。講師は、館長ほか 4 名。

			参加者 121 人 ⑥横浜市郷土史団体連絡協議会所属団体紹介パネル展示を 10/20 (火)～11/1 (日) 2 階廊下で開催した。 ⑦紙芝居 11/28 (土) 「あおば紙芝居一座」による青葉区域の民話を題材とした紙芝居を開催。参加者 70 人。無料。 ⑧歴史散歩「歴史の道 神奈川宿を歩く」 神奈川区いまむかしのガイドの会主催事業への協力。11/12 (木) 開催。参加者 16 人 ⑨図録等刊行物の作成 2 種類 各 2000 部作成 定価 500 円・700 円、売上合計 569 部 ⑩関連図書コーナーの設置 (図書閲覧室)
「横浜市の考古資料展」 H21. 12. 12 (土) ～H22. 1. 11 (月・祝) 会期 21 日	無料	3,357 人 1 日あたり 160 人	横浜市が指定してきた文化財の中で当館が所蔵する考古資料の主なものを紹介した。同時に市内遺跡の調査・整理の成果を報告する「横浜の遺跡展」、横浜市立学校総合文化祭「社会科作品展」を開催した。 ①フロアレクチャー 4 回 参加者 51 人 ②講演会 12/19 (土) 「科学の力で古代を探る！ー北川表の上遺跡の発掘成果と化学分析ー」、参加料 500 円、参加者 62 人
開館 15 周年記念特別展 「古代の役所と地域社会ー誕生！古代よこはまの郡家(ぐうけ)ー」 H22. 1. 23 (土)～ H22. 3. 22 (月・祝) 会期 51 日	大人 400 円 高大 200 円 小中 100 円	8,226 人 1 日あたり 161 人	古代国家の地域社会の核となった郡の役所がどのような存在であったのかを明らかにする展示を行った。郡家の構造とともに、郡家における文書行政の実態、税の収集や稲の貸付である出挙の実像など、郡家を媒介とした人やモノの流れの諸相、郡家における祭祀の諸相など、郡家の多様な姿を紹介した。この展覧会は、重要文化財等公開促進事業の一環。 ①講演会 2/14 (日) 前沢和之氏 (館林市役所市史編纂センター専門指導員) 「『上野国交替実録帳』からみる郡家と地域社会」 参加料 500 円、参加者 54 人 2/28 (日) 森公章氏 (東洋大学教授) 「郡家の構造と機能」、参加 500 円、参加者 96 人 ②研究講座 2/6 (土) 「横浜市域の郡家ー武蔵国都筑郡家を中心にー」、参加 300 円、参加者 34 人

			2／20（土）「郡家成立以前—7世紀後半の地域編成—」、参加料300円、参加者46人 3／6（土）「武蔵国都筑郡と郡家の成立過程」参加300円、参加者47人 ③フローアーレクチャー 6回 132人 ④関係遺跡散歩 2／16（火）「武蔵国府周辺を歩く」（熊野神社古墳・武蔵国庁跡・大国魂神社・府中市郷土森博物館）、参加300円、参加者30人 3／2（火）「武蔵国都筑郡家周辺を歩く」（長者原遺跡の跡地・赤田2号墳（復元）・市ヶ尾横穴墓群・稲荷前古墳群）参加300円、参加者45人 ⑤関連遺跡見学バスツアー（日帰りバスツアー） 3／12（金）「駿河国志太郡家を訪ねて」（藤枝市郷土博物館・御子ヶ谷遺跡・国府八幡宮・遠江国分寺跡）、参加料4000円、参加者36人 ⑥図録等刊行物の作成 1500部作成 定価800円、売上691部 ⑦関連図書コーナーの設置（図書閲覧室）
--	--	--	---

（2）企画展示室観覧者の推移

	有料観覧者（人）				無料観覧者（人）	合計（人）	前年比	開催日数	1日平均入館者(人)
	大人	高大	小中	計					
21年度	7,873	675	2,152	10,700	38,191	48,891	89.5%	239日	205
20年度	8,115	585	6,090	14,790	39,860	54,649	97.0%	233日	235
19年度	12,912	683	6,305	19,900	36,424	56,324	73.1%	224日	251

（3）歴史講座等の開催

講座名称/開催日	参加者数	事業内容
古文書解読教室 初めての古文書 H21.10.2(金) ～H21.12.4(金) 毎金曜 10回連続	各回 44人 合計 440人	初心者を対象に江戸時代の古文書を教材として解読の初歩を学ぶ講座を行った。 講師：井上攻、小林紀子 会場：歴史博物館 研修室 参加料：5,000円
古文書解読講座（上級） H22.1.14(木) ～H22.2.11(木) 毎木曜 5回連続	各回 49人 合計 245人	古文書解読の経験がある人を対象に、内容を重視した上級講座を行った。 講師：斉藤司 会場：歴史博物館 講堂 参加料：2,500円

中世史講読講座 H22. 1. 14(木) ～H22. 2. 11(木) 毎木曜 5回連続	各回 55人 合計 275人	中世史の良質な史料を教材に地域に関する特定のテーマを明らかにする講座を行った。 講師：阿諏訪青美 会場：歴史博物館 講堂 参加料：2,500円
古代史講読講座 H22. 2. 18(木) ～H22. 3. 18(木) 毎木曜 5回連続	各回 42人 合計 210人	日本古代史の主要な問題について関係史料を読み解く講座を行った。 講師：平野卓治、柳沼千枝 会場：歴史博物館 講堂 参加料：2,500円
土器づくり教室 H22. 2. 14(日) ～H22. 3. 20(土) 全4回	各回 24人 合計 96人	横浜縄文土器づくりの会の指導で、港北ニュータウン出土の縄文土器をモデルに土器づくりの体験教室を行った。また、完成作品の展示会を開催した。 会場：歴史博物館 工房・野外広場 参加料：3,500円
出張土器づくり教室	16人	横浜縄文土器づくりの会との協働で、市内の公立小学校へ出張して、土器づくりの指導を行った。 10/15(木)、11/6(金)、12/9(水) 下末吉小学校
竪穴住居に泊まろう H21. 9. 19(土) ～H21. 9. 20(日)	24人	小学生とその親を対象に遺跡の復元住居で、火起こしや遺跡解説、竪穴住居に宿泊する体験教室を行った。 参加料：大人1,500円、子供700円 参加者：9世帯24人
横浜開港150周年 シンポジウム「地域から考える横浜開港」 H21. 10. 24(土)	213人	東海大学と連携し横浜開港150周年を記念して、講演会とシンポジウムを開催した。 講演会講師：大口勇次郎（お茶の水大学名誉教授） 会場：東海大学松前記念館講堂
放送大学連携授業 H21. 10. 25(日), 11. 8(日), 15(日)	36人	放送大学（神奈川学習センター）と連携して、授業科目「史跡踏査入門」を歴史博物館で開設した。 講師：井上攻、平野卓治 会場：歴史博物館 史跡現場（旧神奈川宿、市ヶ尾周辺古墳）
開館15周年記念特別 講演会 H22. 2. 7(日)	197人	開館15周年を記念して「中世東国の戦争と平和一享徳の乱を中心に」と題する特別講演会を行った。 講師：峰岸純夫（東京都立大学名誉教授） 会場：歴史博物館 講堂 研修室
講師派遣		地域の研究団体、歴史研究サークル等が主催する講座・講演会へ学芸員を派遣した。延べ32回。

（４）体験学習の実施

会場/開催日	参加者数	参加料	事業内容
体験学習室 毎日開催	55,442人	無料	さまざまな道具に直接触れ、歴史を実感できる内容で実施した。

			常時開催：銅鐸鳴らし、石臼で粉ひき、火打石、あかり比べ等 ミニ展示 ・私たちが作った縄文土器展 4 / 1 (水) ~ 4 / 5 (日) ・江戸の旅・明治の旅 7 / 10 (金) ~ 11 / 27 (金) ・ちょっと昔を探してみよう 11 / 28 (土) ~ 3 / 31 (水) ・「江戸時代の旅」「ちょっと昔をさがしてみよう」に合わせ、子ども向けのワークシートなどを用意し、放課後や週末のこどもの居場所を提供した。
体験コーナー H21. 4. 9(水) ~H21. 6. 27 (金)	26,856 人	無料	小学校団体が多い4~6月にかけて、エントランスホール・復元住居等で、火起こし疑似体験や貫頭衣を試着したりできるコーナーを設置し、ミニ体験を実施した。
工房 土日開催(1日2回) 22日44回	1,093 人	300 円	小学生の親子を中心に、楽しみながら歴史に触れる教室を開催した。 勾玉づくり、土偶づくり、小田原提灯づくり、凧づくり、草履編み、紙すき体験、万祝染体験等
古代人体験 H21. 8. 1(土)	40 人	300 円	小学校5・6年生を対象に、火起こしや勾玉作りなど古代人の体験を行った。都筑区役所と都筑区青少年指導員連絡協議会と共同主催。
市民協働ワークショップ H21. 5. 9(土). 10(日)、 6. 6 (土)	34 人	無料	横浜縄文土器づくりの会の企画を得て、協働で「大むかしの粘土細工」を実施した。
日産スタジアム勾玉作りワークショップ H21. 5. 16(土)	69 人	100 円	横浜マリノス株式会社と協同で、日産スタジアムに出張し勾玉作りのワークショップを実施した。
出張ワークショップ H21. 8. 9(土)	18 人	100 円	西武百貨店と協同で、東戸塚西武百貨店に出張し勾玉作りのワークショップを実施した。
不登校学級ワークショップ H21. 10. 28(水)	34 人	300 円	不登校学級「ハートフルスペース都筑」の児童・生徒を対象に勾玉作りのワークショップを実施した。

体験広場野焼き	4 5 6 人	無料	工房で作った土偶等の野焼きを横浜縄文土器づくりの会と協働で行い、市民に公開した。 6 / 7 (日)、8 / 22 (土)、10 / 17 (土)、 3 / 20 (土)
---------	---------	----	---



小田原ちょうちん作り・マリノスケ参上



西武百貨店・出張勾玉作り

(5)「夏休み博物館たんけん隊」の実施

会場	開催日	参加者数	事業内容
常設展示室 企画展示室 博物館バックヤード	H21. 8. 2、 9、16、23 (日) 1日2回	156人	博物館を楽しみながら関心を高めてもらうために、親子や児童生徒を中心に開催した。 内容：企画展の展示ポイント解説、常設展示室の照度測定体験、赤外線テレビカメラでの調査体験、博物館バックヤード見学など

(6)「ふるさと横浜探検」の実施

探訪地	開催日	参加者数	事業内容
横浜開港150周年 記念企画 よこはま 事始め 山手地区	H21. 4. 30 (木)	34人	開港場に隣接した横浜山手地区を探訪した。 参加料：700円
横浜開港150周年 記念企画 よこはま 事始め 関内地区	H21. 5. 21 (木)	33人	開港場に隣接した横浜関内地区を探訪した。 参加料：700円
横浜開港150周年 記念企画「開港場新 潟と北前船の湊を訪 ねて」	H21. 6. 3 (水)～4 (木)	27人	横浜開港150周年の記念企画として、同時期に開 港した新潟と周辺の北前船が寄港した湊を見学する 1泊ツアーを実施した。 参加料：28,000円
横浜開港150周年 記念企画よこはま事 始め 神奈川宿から 開港場へ	H21. 7. 2 (木)	33人	開港場に隣接した神奈川から関内地区を探訪した。 参加料：700円
鶴見川と寺家の里山 を訪ねて	H21. 10. 24 (木)	16人	自然観察を中心に鶴見川流域の川と谷戸を探訪した。 参加料：大人700円、小学生300円

横浜開港150周年 記念企画「開国・開 港ゆかりの浦賀周辺 の歴史散歩」	H21. 11. 19 (木)	36人	日本の開国・開港のゆかりの地である浦賀周辺を探訪した。 参加料：700円
国史跡長浜城と菰山 周辺の歴史散歩	H22. 3. 25 (木)	40人	伊豆周辺の後北条氏の城跡を大型バスで巡った。 参加料：4,000円

(7) 集客イベント等

項 目	開催日	参加者数	事 業 内 容
開港150周年記念 フェスタ	H21. 6. 6 (土)～ 7(日)	1,300人	常設展示室、企画展示室無料開放。土器パズル、近世・近代ブース展示解説、企画展展示解説、昔あそび、昔ののりもの、音楽マジック等のパフォーマンス、遺跡公園野焼きを実施。
4区のチェンジ！大 変貌展－横浜市編入 70年の歴史	H21. 7. 9 (木)～ 26(日)		博物館＋北部4図書館合同郷土展 「横浜市北部地域の150周年」 都筑区・青葉区・港北区・緑区の各図書館と博物館の協働で、資料・写真パネルの巡回展示を行った。
横浜Fマリノス展	H21. 8. 15 (土)～ 30(日)		横浜F・マリノスとの協働で、横浜F・マリノス提供の資料によるミニ展示を行った。
都筑アートプロジェ クト 2009 ニュータ ウン ピクニック－遺 跡をめぐるアート－	H21. 10. 1 1(日)～ 11. 7(土)	16,000人	都筑民家園と協働で歴史博物館・民家園・遺跡公園を会場に現代アート展を開催した。関連企画として8月から周辺小学校でのワークショップや公園でのアートマーケット、コンサートを実施した。
博物館感謝デー	H22. 1. 30 (土)～ 31(日)	5,786人	常設展示室・企画展示室の無料開放。常設展示・特別展解説、時代衣装を装着した案内係、紙芝居、パントマイムショー、講演会ビデオの上映、土器復元パズル、ショップフェアを実施。
ラストサタデープロ グラム（火起こし）	全3回	219人	学芸員による常設展示解説のほか、4/25、5/30、6/27に正面玄関にて火起こし体験実施。

(8) エントランスホールコンサートの実施

横浜市歴史博物館の認知度を高め、新規来館者の開拓を図るため、博物館エントランスホールを会場としてコンサートを開催しました。

事業名/開催日	事 業 実 績 等
第16回コンサート 「横浜150年を記念して」 ～名曲コンサート～ H21. 7. 4(土)	演奏者：ピアノソロ 田口千晴、ソプラノ 田上裕子 フルート 高橋雪・池田雪花、ピアノ 加納麻衣子 来場者数：372人
第17回コンサート 「アンサンブル・ラインクリスマス コンサート」 H21. 12. 5(土)	演奏者：バイオリン 手島志保、バイオリン 平岡陽子 ヴィオラ 東 義直、チェロ 松岡 陽平 来場者数：150人



博物館感謝デー



都筑アートプロジェクト 2009

(9) ボランティアの活動支援

項 目		事 業 内 容		
ボランティア事業		・市民ボランティアにより、小中学校団体、及び一般来館者へ大塚・歳勝土遺跡公園、旧長沢家住宅の無料解説ガイドを行った。また、当事業は、ガイド研修を通じて登録者の考古学・歴史学に関する自己学習・生涯学習の支援を兼ねている。 ①ガイド登録者数：53人 ②登録期間 2年間（6期生 平成21・22年度） ③基本ガイド時間 小学校団体 45分間 一 般 60分間 ・学校団体来館時の対応や、ラストサタデープログラムなどの事業を支援してもらうことを目的とした、活動支援ボランティアを実施した。 ①登録者数：19人 ②活動実績 4～6月学校団体対応火起こし疑似体験活動 - ラストサタデープログラム火起こし体験 - 夏休み勾玉教室 - アートプロジェクト 活動のべ人数442人		
ガイドボランティア研修の実施		・館外研修会・研修講座等を開催した。 ・本年度は第6期の1年目で、活動期間は、平成21年4月1日～23年3月31日。		
項 目		平成21年度	平成20年度	平成19年度
活動実績	ガイド実施日数(日)	306	302	299
	解説回数(回)	920	952	925
	1日平均解説回数(回)	2.87	3.04	3.1
	参加者数(人)	28,296	30,008	27,763
	団体対応(件)	306	336	332
	団体のうち学校数(校)	270	288	298

(10) 学校連携事業の実施

学校利用を促進するために、エデュケーターを中心に「学校の博物館利用研究会」を運営し、展示資料案内の作成、教師向けと児童向けのホームページの作成、区別展示物の児童向け資料作成を行いました。また、「吉田新田」「出張土器づくり」についての小学校への出前授業と、近隣4区の小学校向けに常設展示室で吉田新田の説明を行いました。また、教職員を対象とした、吉田新田の学習会を行い、各区社会科研究会研修会の運営に参加協力しました。

事業名／開催日	事業内容等
学校の博物館利用研究会 第1回 H21. 6. 27(土) 第2回 H21. 8. 29(土) 第3回 H21. 12. 13(土) 第4回 H22. 2. 27(土)	①横浜市小学校社会科研究会所属の教員5名及び関係職員で構成。区ごとの常設展示物と史跡紹介資料作成を行った。 ②財団諸施設に対する学校ニーズについて調査した。 ③歴史博物館をはじめ、他館についての利用方法も検討した。 ④区ごとの歴史ポイント見直し、展示物説明を作成した。
教職員専門研修 H21. 7. 30(木)	市教育委員会が主催する教職員研修を受け入れて実施した。 参加人数：34人
月曜開館	学校団体の来館が多い4・5月の月曜日に臨時開館し、混雑緩和と積極的な学校団体誘致を図った。
吉田新田出前授業 9校 957人	10／1 (木) 神奈川区子安小学校 3クラス 120人 10／29 (木) 中区立野小学校 3クラス 99人 11／11 (水) 南区别所小学校 3クラス 115人 11／24 (火) 泉区下和泉小学校 3クラス 99人 11／27 (金) 青葉区つつじが丘小学校 3クラス 103人 12／1 (火) 南区永谷小学校 3クラス 91人 12／10 (木) 旭区二俣川小学校 3クラス 101人 12／11 (金) 港南区丸山台小学校 2クラス 79名 12／22 (火) 瀬谷区瀬谷小学校 4クラス 150名
常設展示室吉田新田説明 14校 1,571人	10／9 (金) 青葉区桂小学校 3クラス 82人 10／23 (金) 都筑区茅ヶ崎東小学校 5クラス 188人 10／28 (水) 都筑区都筑小学校 4クラス 134人 11／5 (木) 都筑区山田小学校 3クラス 93人 11／13 (金) 都筑区牛久保小学校 3クラス 112人 11／19 (木) 青葉区東市ヶ尾小学校 4クラス 127人 11／20 (金) 青葉区山内小学校 4クラス 135人 11／26 (金) 都筑区荏田西小学校 4クラス 134人 12／3 (木) 港北区新吉田小学校 2クラス 53人 12／4 (金) 青葉区剣山小学校 2クラス 60人 12／9 (水) 泉区いずみ野小学校 2クラス 49人 12／15 (火) 青葉区山下みどり小学校 3クラス 94人 12／17 (木) 都筑区川和小学校 3クラス 77人 12／18 (金) 東山田小学校 6クラス 233人

教職員対象の吉田新田の学習会	授業での学習ポイントを説明 8 / 4 (火) 52人、8 / 25 (火) 62人
各区社会科研究会への事業	6 / 10 (水) 都筑区社会科研究会 30人 「吉田新田学習会」 7 / 8 (水) 港北区社会科研究会 25人 「吉田新田学習会」 8 / 27 (木) 泉区社会科研究会 24人 「火起こしの体験+常設展見学」

(11) 小・中学校団体利用の推移

項 目	平成21年度	平成20年度	平成19年度
学 校 数 (校)	393	452	425
児 童 ・ 生 徒 数 (人)	38,132	41,639	37,695

(12) 実習・研修の受け入れ

項 目	事 業 内 容
博物館館務実習の受け入れ	博物館学芸員資格の取得を目指す「博物館実習」受講生を受け入れ、指導を行った。 (A日程) 期間：H21.5.30(土)～11.7(土)の内、9日間 受入数：5人 (B日程) 期間：H21.7.28(火)～8.25(火)の内、8日間 受入数：12人
社会研修の受け入れ	生徒・学生・社会人の社会体験・研修等を受け入れた。 8 / 9 (日)～30(日)の内、5日間 神奈川県立白山高校初任者 1人 8 / 14 (金)～30(日)の内、5日間 神奈川県立大和高校初任者 1人 10 / 28 (水) ハートフルスペース都筑 34人 11 / 6 (金) 横浜市立中川西中学校 4人 11 / 26 (木) 横浜市立東山田中学校 2人 1 / 27 (水) 横浜市立あざみ野中学校 4人 1 / 28 (木) 横浜市立中川中学校 4人 1 / 27・28 (水・木) 横浜女学院中学校 2人 2 / 21 (日) 私立武蔵高校 1人 H21.2.25(木)～3.7(日)フェリス女学院大学 2人

(13) 広報出版

項 目	事 業 内 容
リーフレット類作成	歴史博物館案内パンフレット 歴史博物館案内児童用パンフレット 歴史博物館催し物案内 (年2回) 通史展示解説シート

出版物発行	横浜市歴史博物館ニュース（２回） 各 20,000 部作成 横浜市歴史博物館資料目録 第 18 集 700 部作成 横浜市歴史博物館紀要 第 14 号 800 部作成
その他広報	市営地下鉄 6 駅構内の広報案内看板による広報 市営地下鉄の車内放送による広報 インターネットによる広報 一般新聞・雑誌等への広告掲載による広報 都筑区民まつり、センター北まつりへの出店参加による広報 市営地下鉄車内吊り広告による 5 施設紹介の広報 FM 放送への情報提供 横浜開港 150 周年記念グランドミュージアム参加 埋文センター・三殿台考古館との連携チラシ「よこはま古代人ワールド」による広報

5 情報事業（寄附行為第 4 条第 4・5・6 号）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
収蔵資料等データ入力及びインターネット公開	収蔵資料、図書文献資料等のデータ入力及びインターネット公開を行った。 ・データ入力件数 合計 2,255 件 ・インターネット公開 収蔵資料情報の公開 合計 50 件（前年度 50 件） 図書文献資料情報の公開 合計 1,766 件（前年度 3,013 件）
映像資料の公開	スタディサロンで映像ビデオを公開した。
文化財情報システムの運用・保守	インターネット等による文化財情報の管理・発信やグループウェアに関わる機器類の保守を行った。
ホームページを利用した博物館情報の発信と市民ニーズの把握	博物館のホームページ上で、博物館の催し物案内をはじめ、展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料・図書文献資料・市内文化財等の紹介を行った。 アクセス件数 合計 97,666 件

6 歴史博物館施設維持事業（寄附行為第 4 条第 7 号）

横浜市歴史博物館及び野外施設の維持管理・運営を行いました。

（１）横浜市歴史博物館等の維持管理

管理対象施設等	事業内容・所在地など
横浜市歴史博物館	施設の維持管理、補修・修繕、燻蒸 スタディサロン・歴史劇場の運営

	講堂、研修室の貸出 主な修繕： 屋根及び外壁タイル修繕工事 所在地：都筑区中川中央一丁目
横浜市歴史博物館野外施設	国指定史跡「大塚・歳勝土遺跡公園」の管理 所在地：都筑区大塚西

(2) 講堂・研修室利用の推移

項 目		平成21年度	平成20年度	平成19年度
講 堂	利 用 者 数 (人)	25, 120	26, 152	15, 773
	利 用 件 数 (件)	133	154	116
	うち有料貸出件数 (件)	13	18	29
研修室	利 用 者 数 (人)	7, 088	7, 525	8, 377
	利 用 件 数 (件)	252	301	231
	うち有料貸出件数 (件)	152	198	136

(3) 横浜市歴史博物館野外施設入場者の推移

項 目		平成21年度	平成20年度	平成19年度
横浜市歴史博物館野外施設 (人)		63, 315	61, 701	59, 835
内 訳	大 塚 遺 跡 (人)	58, 496	56, 203	57, 349
	工 房 (人)	4, 819	5, 493	6, 305

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	資料購入・寄贈等による資料収集を行うとともに、複製資料の制作やマイクロフィルムなどによる収集を行いました。収集資料の整理・保管・データ入力、資料の修繕を進め、保管環境の維持につとめました。また、画像資料の有料貸出も継続し、収入の確保を図りました。本年度は2, 369点の資料を収集しました。	B
調査研究事業	収蔵資料に関する調査研究を3本、また地域資料に関する調査研究を5本、予定通り実施しその成果は報告書・紀要等として刊行・公開すると共に、講座・講演会、企画展等に反映させました。「縄文時代漁労具の研究」は22年4月からの企画展「考古学ってなに？」に活用され、好評を得ました。また、22年以降の企画展の基礎調査も当初計画の通り実施しました。	B

常設展事業	常設展示室の展示環境を整え来館者に気持ち良く観覧してもらうため、定期のメンテナンスや部 品交換、修繕、清掃等を計画通り実施し維持管理 を図りました。また、活性化・リピーターの獲得 等を目的に、学芸員による展示解説、収蔵資料ミ ニ展示及び解説等を実施し高い満足度を得るこ とができました。ただし入場者数の達成率は、当 初事業計画で上げた見込み数の 88%の結果に 留まりました。これはY150 開国博の影響もあり 5月・6月の学校団体見学数・人数が大幅に減 少したことが大きな要因の一つです。市内外の学 校への働きかけ強化、IT等の活用による拡充を 図ります。	C
企画普及事業	本年度は開港150周年等の記念事業を含め、こ れまでになく多くの事業を実施しました。当初計 画した事業は 予定通り実施 するとともに、 新規 事業として西武百貨店での出張ワークショップ などを実施しました。 企画展・特別展の入場者 は目標の82%に留まりましたが、 150周年 記念関連を含めた講座・講演会は目標の11 2%となりました。 記念事業の一環として、 館 員が夏・秋・冬の3プロジェクトに分かれ、1 50周年記念フェスタ等の集客事業を展開する という新しい試みも行いました。 市民協働にお いても支援ボランティアの活動が本格化し、学 校団体見学時や博物館の諸事業に延べ442人 の参加者を数えるなど、 活発な支援活動が行わ れました。 学校連携としては、学校団体見学数 は当初目標の86%に留まりました。しかし、 吉田新田の出前授業は前年度より2校6クラ ス、231人の増、常設展示室吉田新田コーナ ーの解説は、6校25クラス、892人の増加 と着実に成果を上げています。	B
情報事業	館内の端末での情報提供とインターネットでの 収蔵資料情報の公開等、情報発信を実施しまし た。インターネットへのアクセス数は、 当初事 業計画で上げた目標値の136%を達成しまし た。	S
管理運営事業	博物館・遺跡等施設の維持管理を適切に実施しま	B

	した。特に博物館では大規模施設長寿命化計画に基づき、屋根及び外壁タイル修繕工事を行いました。	
--	--	--

8 開港資料館事業

平成21年度、当館は、「開港150周年」を象徴する施設として活動しました。

企画展示は「開港150周年記念」と題した4つの展示(「横浜開港と宣教師」、「港都横浜の誕生」、「横浜中華街150年」、「村々の文明開化」)を開催しました。1月からは空調機器の改修工事のため3カ月以上にわたって閉館しましたが、**4つの展示の総入館者数は71,691人に達し、前年の入館者68,990人を大きく超えました。**

当館の主要事業である市民協働事業では、横浜郷土史団体連絡協議会をはじめとする市民団体との共催事業を積極的に展開し、7月25日には横浜郷土史団体連絡協議会との共催で開港150周年記念講演会「近代横浜を生きた女たち」を、11月25日にはフォーラム「神奈川湊から横浜港」を開催しました。さらに、横浜市・横浜港振興協会・横浜開港150協会などが主催する開港150周年記念事業にも協力し、事業の監修・資料提供・講演会講師派遣・原稿執筆をおこないました。また、マスコミ・雑誌等への複製資料貸出・取材・撮影・記事連載・監修など、自主企画以外にも多岐にわたるニーズに対応しました。

この結果、**指定管理事業収入も2,360万円を超え、指定管理期間の初年度にあたる平成18年度と比べ137%増に達しました。**

各事業報告

1 資料収集保管事業（寄附行為第4条第1号）

開港期を中心として明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料を収集し、収集資料を良好な状態で保存するために資料の保管・修繕を行いました。また、閲覧室での資料公開・コピーサービスにより、資料や研究成果の普及を行いました。

(1) 資料の収集・管理・公開

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈15件 83点 寄託 3件232点	主な収集資料：新堀豊彦氏蔵貞秀の肉筆画と伝えられる横浜市街地図、石橋サク子家資料66点ほか
資料の購入	53件 466点	主な収集資料：武蔵相模伊豆駿河安房上総下総常陸八州海岸要地之図ほか
資料のマイクロ化	18件	主な複製（マイクロ撮影）資料：岩澤家文書ほか
資料の保存処理・修繕	5件(14点、83R)	劣化の進んだジアゾフィルムのデュープを作成ほか
資料の分類・整理	古文書など 約1,600点	収集した歴史資料を保存・公開するため、資料群ごとに分類整理した。
資料のデジタル化	約1,200点	横浜市史編集室旧蔵絵葉書のうち、横浜関係絵葉書のデジタル化を実施した。

文献資料のコンピュータ検索の実施	1,441 件	所蔵文献資料のデータベース化、閲覧室での検索システムの整備を行った。
閲覧室における資料の公開	閲覧室利用 3,196 人 書庫内資料の出納 4,432 点	邦字・欧字新聞複製、図書等の開架資料の公開と、文献・古文書等の閉架資料の出納・公開を行った。 1月～3月は休室
写真資料・画像資料の撮影・整理	撮影件数(59件) 開港当初に作成された絵図など	企画展や閲覧公開に供する資料及び収蔵資料の撮影と整理・登録を行った。
複製フィルム等の貸出	貸出件数 864 件 3,005 点	市民や企業、他の博物館や公共機関、出版社などへの写真資料の貸出を行った。
実物資料の貸出	貸出件数 18 件 258 点	他の博物館へ実物資料の貸出を行った。

(2) 資料収集内訳

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
行政資料(点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1,851 (1,851)
政府資料(点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	16,137 (16,137)
海外資料(点)	— (—)	1 (—)	— (—)	— (—)	1 (—)	13,025 (13,024)
文書・記録(点)	37 (8)	12 (6)	43 (339)	232 (261)	324 (641)	73,600 (73,276)
新聞資料(点)	4 (19)	— (3)	2 (—)	— (—)	6 (22)	9,717 (9,711)
横浜絵・写真等(点)	133 (37)	3 (6)	22 (—)	— (—)	158 (43)	31,217 (31,059)
コレクション(点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	50,165 (50,165)
文献資料(点)	292 (204)	2 (2)	16 (—)	— (—)	310 (206)	56,164 (55,854)
合 計	466 (268)	18 (17)	83 (339)	232 (261)	799 (885)	251,876 (251,077)

※()内は、前年度点数。

(3) 複製フィルム等の貸出実績

項 目	平成21年度	平成20年度	平成19年度
出版社(一般書・教科書・雑誌)、放送・テレビ会社、官公庁、横浜市及び横浜市関連機関への貸出	864 件	810 件	579 件

(4) 閲覧・資料相談・複写サービス利用状況

項 目	平成21年度	平成20年度	平成19年度
閲覧室利用者数(人)	3,196	3,873	3,614
複写申込件数(件)	1,719	2,748	1,938
複写枚数(枚)	43,176	47,403	44,540
レファレンス件数(件)	3,117	3,251	2,823

(5) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
害虫防止策	収蔵庫・展示室窓に紫外線防止フィルム貼付、害虫忌避剤の散布
環境検査	5回／年 実施

(6) 資料保管施設の管理

保管施設	保 管 資 料
横浜開港資料館収蔵庫 (310 m ²)	文書記録、画像資料、個人文庫、文献等の収蔵と管理を行った。
大黒埠頭倉庫他	マイクロフィルム、器物資料等の収蔵と管理を行った。

2 調査研究事業（寄附行為第4条第1号）

開港期を中心として明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料について調査研究を館外の研究者とも協力して行いました。調査研究項目を一部組替・統合しましたが、当初事業計画の所期目的を達成しました。

(1) 基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
開国・開港期の歴史 ・幕末・明治期の史跡と古記録の研究（4／5年次）	① 21年度第1回企画展示「港都横浜の誕生」 として公開した。 ②長野県の生糸貿易関係資料の調査など古文書所在調査を実施。 ③ 横浜の歴史を普及するための新聞連載（神奈川新聞・読売新聞ほか）。
横浜近代政治史 ・横浜市政史の研究（4／5年次）	① 21年度第3回企画展示「村々の文明開化」 として公開した。 ②横浜近代史研究会と協働で瀬谷区・泉区を中心とする地域資料の調査を行い、新資料の収集・整理と分析を進めた。 ③ 横浜の歴史を普及するための新聞連載（神奈川新聞）や歴史講座の講師をつとめた。
横浜近代経済史 ・茂木商店関係資料及び興行関係資料の研究（4／5年次）	①茂木商店関係中山浜次郎文書（山田静夫家文書・書簡以外）の目録化を進めた。 ②中山浜次郎文書（中山富太郎家文書）の整理受け入れを行った。
横浜近代文化史 ・横浜の教育史に関する調査 ・横浜の出版、及び出版文化に関する調査（4／5年次）	① 研究成果を企画展「横浜開港と宣教師」 として公開した。 ②軽部家資料のうち絵葉書の整理を行った。 ③横浜海岸教会資料の整理を引きつづき行った。
横浜近代欧米関係史 ・横浜外国人社会に関する研究（4／5年次）	①幕末英駐屯軍士官旧蔵資料の解読と分析を行い、研究成果を普及紙などで公開した。 ②チェンバレン関係資料の整理を行った。 ③萩原延壽文庫（洋図書）・WBメーソン関係資料の整理を行い、22年度実施予定の展示企画案作成に活用した。
横浜近代アジア関係史 ・横浜在留華僑・華人に関する研究（4／5年次）	① 21年度第2回企画展示「横浜中華街150年」 として公開した。 ②中華会館と口述記録の調査計画について協議した。 ③中華街関係の研究成果を紀要や新聞などで公表した。

歴史情報に関する研究 ・明治・大正期の横浜関係情報に関する研究（４／５年次）	①横浜に関する明治・大正期の新聞を調査した。 ②平成２２年度第１回企画展示「地域メディアの誕生」展の準備をおこなった。
---	--

（２）委託調査

項 目	委託先	目的・意図 及び 内容・成果
横浜と周辺郡部を対象とした地域研究と経済貿易史に関する研究（４／５年次）	横浜近代史研究会 （代表 大豆生田稔）	①鎌倉郡の地域資料の調査 ②横浜と周辺郡部の地域資料の整理と分析（神奈川県農会技師・磯貝久の日記など） ③横浜の経済・貿易に関する調査研究（茂木商店考課状・長野県下伊那郡喬木館関係資料など）
幕末・明治初年の貿易史と古記録に関する調査研究（４／５年次）	横浜史料調査研究会 （代表 井川克彦）	①江戸時代に作成された古文書を所蔵する旧家の調査（保土ヶ谷区軽部家ほか） ②開港資料館が所蔵する和本などの整理 ③シイベル・ブレンワルド商会の日記翻訳 ④市外の機関が所蔵する古文書の調査（上田市上丸子飯沼区有文書・上田市立博物館蔵文書ほか）
横浜外国人社会に関する調査研究（４／５年次）	横浜外国人社会研究会（代表 大西比呂志）	①横浜居住外国人関係者の調査とインタビュー ②戦前に在住外国人の取締を担った外事警察の報告書の調査と分析 ③他機関や関係者が所蔵する関係資料の調査・収集（「鳴門市ドイツ館蔵書目録」ほか）の調査 ④横浜居住外国人リストのデータベース化

（３）研究紀要の発行

出版書籍名	作成部数	頒布価額	事 業 内 容
横浜開港資料館 紀要 第２８号	1,250 部	1,529 円	当館専門職員による資料の調査研究、整理等の成果をまとめた。 ・論文「維新时期における対外折衝と横浜」ほか ・史料紹介「明治前・中期の茂木商店『実際考課状』」ほか

３ 常設展事業（寄附行為第４条第２号）

常設展示室において、資料・展示ケースなどの保守点検を実施し、円滑な展示室運営を行いました。

（１）常設展示室観覧者の推移

	有料入館者（人）				無料入館者（人）	合計（人）	前年比	開館 日数	１日平均 入館者(人)
	大人	小中	閲覧室	計					
21 年度	41,164	8,287	1,416	50,867	20,824	71,691	103.9%	230 日	312
20 年度	40,316	8,827	1,715	50,858	18,132	68,990	115.6%	303 日	228
19 年度	32,111	10,339	1,626	44,076	15,588	59,664	101.3%	302 日	198

※ 平成21年12月28日から平成22年4月9日まで、空調機器全館改修工事のため休館。

(2) 新収蔵資料や新発見資料紹介コーナーの設置

常設展示室の一角に、新収蔵資料や新発見資料の紹介コーナーを設け、調査研究の成果をいち早く紹介しました。

項 目	内 容 ・ 成 果
資料紹介	第16回 3 / 1 ~ 4 / 19 「橘樹郡を支えた人びと関係史料」 第17回 4 / 22 ~ 6 / 30 「ペリーが贈ったと伝えられる望遠鏡」 第18回 7 / 1 ~ 8 / 30 「横浜開港 50 年祭の記念品」 第19回 9 / 1 ~ 11 / 1 「手のひらの中の小さなキャンバス」 第20回 11 / 3 ~ 12 / 23 「開港と近代歯科医学」

(3) 旧館記念室（総領事室）一般公開と記念ホールでの音声ガイドの設置

開港150周年を記念して、旧館記念室（領事室）を公開しました。

一般公開日：平成21年6月2日（火）～12月27日（日）、見学者総数：63,105人

ホールに展示してある開港場模型の音声ガイドを設置しました。

(4) 中庭夜間開放

開港150周年を記念して、閉館後も中庭を開放して、たまくすと旧英国総領事館の公開を行い、喫茶室の営業時間を延長しました。

一般公開日：平成21年4月28日（火）～平成21年9月27日（日）

見学者総数：7,725人

4 企画普及事業（寄附行為第4条第2・4・5・6・8号）

開港期を中心として明治・大正にかけての横浜の歴史とその関連資料の研究成果を企画展開催や紀要・資料集・書籍出版等で発表しました。また、市民との協働を積極的に進め、講演会の実施や会報の作成指導等を行いました。

(1) 企画展の実施

企画展名/開催期間	入館者数	目的・意図 及び 内容・成果
開港150周年記念 横浜開港と宣教師 翻訳聖書の誕生 H21.1.28(水)～H21.4.19(日) 21年度中会期17日	3,578人 1日あたり 210人	修好通商条約締結後、横浜に来日した宣教師たちが行った聖書翻訳の歴史を通じて、当時の人々に与えた文化的な影響を明らかにし、また当時の出版文化や世相を紹介した。 ①フロアレクチャー 3回実施 ②企画展関連講座＋コンサートの実施
横浜開港150周年記念 港都横浜の誕生 H21.4.22(水)～H21.7.26(日) 会期83日	35,477人 1日あたり 427人	新収資料や新発見資料を一挙に公開した。展示を通じて、日本最大の国際都市横浜が作り上げられた歴史と、横浜が日本の近代化に果たした役割を振り返った。 ①企画展関連講演会の実施 ②企画展関連講座の実施

		③企画展関連図録の作成 1500部作成 定価500円、1500部販売
横浜開港150周年記念 横浜中華街150年 落地生根の歳月 H21.7.29(水)～H21.10.25(日) 会期77日	22,604人 1日あたり 294人	開港を契機に形成された中華街の歩みを、所蔵資料および関係機関・個人が所蔵する資料で紹介した。 国際都市横浜を象徴する中華街の歴史を通して、開港都市横浜の歴史を振り返った。 日本財団から助成金を受けた事業。 ①企画展関連シンポジウムの実施 ② 中華街との協働で文化フェア（ランタンフェスティバル）を実施 ③企画展関連図録の作成 初版2000部作成、増刷750部作成、定価1000円、1750部販売
開港150周年記念 村々の文明開化ー港都を支えた 200ヶ村の名士たち H21.10.28(水)～H21.12.27(日) 会期53日	10,032人 1日あたり 189人	明治維新から約20年間、横浜周辺の村々が、地租改正・徴兵制・学制等の明治政府の近代化政策、あるいは西洋思想・文明等の「近代」をどのように受容していったのかについて紹介した。 ①横浜の村々を歩いてみよう 横浜郷土史団体連絡協議会との共催で、展示見学と旧瀬谷村、旧中田村（泉区）の現地散策を実施した。 11/29、12/6・13 3回開催

(2) 歴史講座等の開催

講座名称/開催日	参加者数	事業内容
企画展関連講座＋コンサート「横浜のオルガンと讃美歌」 H.21.4.4(土)	87人	講演とあわせてオルガン演奏も実施。 「横浜と西洋音楽」平野正裕 参加料1000円、募集人数80人。
企画展「港都横浜の誕生」記念講演会 H21.5.28(木)	390人	会場は、横浜市開港記念会館。 「国際都市の街づくり」西川武臣ほか 参加料無料、募集人員400人。
横浜開港150周年記念演奏会 H21.6.7(日)		幕末の横浜で英国駐屯軍などが演奏した音楽を神奈川フィルハーモニーの演奏で、解説とともに紹介した。 参加料無料、神奈川県庁前で実施
ジャックまるわかり講座 H21.6.11～6.25 毎木曜日(全3回)	各回 100人 合計 300人	中区・横浜開港資料館との共催講座。開港記念会館の歴史をテーマにした連続講座と、ジャックサポーターズガイド(記念会館のボランティアガイド)による建物見学を行った。

展示関連講座「資料が語る横浜開港」 H21. 6. 13～6. 27 毎土曜日（全3回）	各回 80人 合計 240人	「横浜中華街」伊藤泉美、「横浜開港と生糸貿易商」西川武臣、 「歴史的建造物にみる都市横浜のあゆみ」青木祐介 参加料1回500円、募集人員1回80人
市民団体との共催講座（調査研究員と市民団体のメンバーが講師となる講座、横浜郷土史団体連絡協議会の関連事業）	585人	7 / 25（土） 記念講演会「近代横浜を生きた女たち」 参加料 会員：無料 一般：500円、参加者400人
		11 / 25（水） フォーラム「神奈川湊から横浜港へ」 参加料 会員：無料 一般：500円、参加者150人
		11 / 29（日）、12 / 6（日）、12 / 13（日） 講座「横浜の村々を歩いてみよう」 参加料 1500円、参加者35人
たまくすプロジェクト	35人	横浜市環境創造局との協働で、近代横浜のシンボルのたまくすを次世代へ継承するために、苗木の植樹と樹勢回復を行った。 今年度は育て親と6 / 11、10 / 17に植樹を実施した。
横浜開港150周年シンポジウム「地域から考える横浜開港」 H21. 10. 24(土)	213人	東海大学、横浜市歴史博物館と共催で実施。 会場は平塚市の東海大学松前記念館。講演者大口勇次郎、パネラーは西川武臣、早田旅人ほか。 参加料無料。
放送大学連携授業	120人	放送大学との協働講座として当館で実施する放送大学面接授業の講師を前期（7 / 18，19）・後期（11 / 21，22）各2日間ずつ計4日間行った。定員各60人
企画展「横浜中華街150年」記念シンポジウム「チャイナタウン温故知新」	194人	横浜中華街発展会・横浜観光コンベンションビューローと共催。 横浜、神戸、長崎の中華街関係者と研究者が集まり、日本のチャイナタウンの現状と将来について議論した。10月12日 於：横浜情報文化センターホール 参加料無料。



平成21年5月28日

企画展「港都横浜の誕生」記念講演会

（3）各種出版物の作成・編集

出版書籍名	作成部数	頒布価額	事業内容
展示図録 「港都横浜の誕生」	1,500部	500円	「港都横浜の誕生」展の主な出品資料を紹介。
展示図録 「横浜中華街150年 落地生根の歳月」	2,750部	1000円	「横浜中華街150年」展の内容をわかりやすく紹介した。初版2000部、増刷750部

(4) 市民との協働事業の実施

横浜の郷土史に関心の深い市民団体相互の交流促進及び横浜開港資料館と各団体との協働事業を推進することを目的に、平成18年度末に設立した横浜郷土史団体連絡協議会との共催事業として、会報の作成や、講座等を行いました。(平成21年度末現在、加盟51団体)

項 目	事 業 内 容 等
横浜市郷土史団体連絡協議会との共催事業	①研修会 第13回：4/22(水) 第14回：8/28(水) 第15回：11/25(水) 第16回：3/17(水) 全4回 参加者：延べ 184人 ②横浜郷土史連絡協議会 News の発行 13号～16号 ③青葉区郷土史の会「ふるさとの歴史を未来に伝える」連続講座(全4回)などへの講師派遣 ④瀬谷古文書学習会の「古文書を読む会」と古文書解説テキスト「武州鎌倉郡瀬谷村 守屋家文書」を編集・刊行、テキストは開港資料館で販売 ⑤横浜開港150周年記念事業として記念講演会とフォーラム(詳細は前頁に記載)およびパネル展示(会場は横浜市歴史博物館、加盟団体の活動報告をパネルにして展示)を実施した。



平成21年7月25日

横浜郷土史団体連絡協議会共催記念講演会の様子

(5) 新聞社各社への記事連載

項 目	事 業 内 容 等
読売新聞・神奈川新聞への記事連載	読売新聞・神奈川新聞で平成19年度から継続して連載した。内容は「ペリー来航・横浜の開港とその後の都市の発展」に関するもの。読売の連載は、横浜都市発展記念館調査研究員など他施設と共同でおこなった。いずれも好評で21年度中に連載終了。 ①読売新聞神奈川県版 「横浜150年を見る」日曜日不定期連載、26回 ②神奈川新聞特集版 「横浜開港新聞」12頁の企画もの、年3回発行、のべ12号

(6) 資料情報等の発信

項 目	事 業 内 容
インターネットによる情報公開	ホームページ上で資料情報の公開を行った。 新たに①「横浜歴史画像集(パノラマ)」約30点を追加。②「キッズページー文明開化をのぞいてみれば」を掲載して、明治初期の横浜近代化の様子を、小学生にも楽しみながら学べるように配

	慮しつつわかりやすい解説をつけ③、あわせて当時の浮世絵・写真などの画像資料 120 を公開した。④「よこはま事始め」に掲載図版一覧をつけて、図版利用の利便性を高めた。⑤「開港のひろば」縮刷版未収録部分をネット上に公開し、過去 10 年間分の閲覧が可能となった。⑥「横浜開港資料館メールニュース」を毎月 1 回計 12 回、約 700 名をこえる登録者に配信した。
--	--

(7) 実習・研修の受け入れ

項 目	事 業 内 容
博物館館務実習の受け入れ	博物館学芸員資格取得を目指す「博物館実習」受講生を受け入れ、指導を行った。 期間：8 / 2 5 (火) ～ 8 / 3 0 (日) (6 日間) 受入数：1 1 人

(8) 広報紙の発行、一般広報等

項 目	事 業 内 容
館報「開港のひろば」発行	企画展示・収蔵資料・館活動の紹介 第 1 0 4 号～1 0 7 号 (年 4 回) 合計 55,000 部
リーフレット類作成	横浜開港資料館案内パンフレット (小中学生用) 横浜開港資料館案内パンフレット (一般用) 横浜開港資料館催し物案内
その他広報	①インターネットによる広報 ②メールニュースによる催し物などの情報発信 ③Y 1 5 0 開国博会場・印刷物での広報 ④市営地下鉄関内駅構内の広報案内看板利用 市営地下鉄電車内ポスター掲示、各駅構内掲示版利用 市営地下鉄駅 PR ボックスへのチラシ掲出 ⑤みなとみらい線日本大通り駅構内の広報案内看板利用 みなとみらい線駅構内のパンフレットラック、ポスター掲示 ⑥市内類似観光施設・主要ホテル・観光案内所等への広報印刷物の配布 ⑦市内小中高校へのポスターチラシ配布 区校長会への企画展事業案内 区連会掲示板へのチラシ掲出 ⑧一般新聞・タウン情報誌、旅行情報誌等への記事掲載 ⑨TV、ラジオ、FM放送、CATV等の放送メディア利用 ⑩企画展後援新聞紙 (連載)・市広報誌等への記事掲載 ⑪2009 神奈川デスティネーションキャンペーンへの広報 ⑫フィルムコミッション等に協力し、撮影場所を提供 ⑬各種団体のスタンプラリー等参加による集客活動

5 情報事業（寄附行為第4条第4・5・6号）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するためにデータの入力等を行い文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
インターネットによる情報公開	ホームページの内容、体裁を一新し、展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料の紹介を行った。 アクセス件数 合計 148,674件（前年度125,539件）

6 開港資料館施設維持事業（寄附行為第4条第5号）

横浜開港資料館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
横浜開港資料館	施設の維持管理 主な修繕：空調機器全館改修工事（12／28～4／9まで休館） 所在地：中区日本大通3

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	古文書・絵画・古文献などを含む15件(83点)の寄贈、3件(232点)の寄託を受け入れました。主な受け入れ資料には浮世絵師五雲亭貞秀が万延元(1860)年に描いたと伝えられる横浜市街地の肉筆画や明治初年に設置された近代的な消防隊に関する古記録などマスコミで大きく取り上げられたものもあります。マイクロフィルムによる資料撮影や資料のデジタル化も順調に実施しました。	B
調査研究事業	調査研究員がおこなう研究事業のほか、外部研究者に委託しての調査研究活動も予定通りの成果をあげました。こうした成果は展示・講座・新聞連載などで公表しました。また、開港150周年事業のひとつとして有隣堂から出版した『横浜 歴史と文化』に研究成果を活用しました。	A
常設展事業	新収・新発見資料コーナーで5回の展示を開催しました。また、開港150周年事業の一環として旧館の記念室(旧総領事室)を一般公開したほか、受付周辺の本棚やパネルを改修しました。	B

企画普及事業	21年度の企画展示は空調機器の改修工事があったため、例年よりも1回少なくなりましたが、展示入館者は事業計画案で見込んだ数字の113%に達しました。事業収入も3ヶ月間休館にしたにもかかわらず、前年を超えています。このほか、150周年事業として実施したシンポ・講演会・講座・新聞連載も好評で、予想以上の収益をあげました。これにともない、市民協働事業(横浜郷土史団体連絡協議会など)も充実したものになり、市民との信頼関係も強固なものになりました。	S
情報事業	昨年度開設したHPのキッズコーナーは新たな項目を増やしました。メールニュースは700名を超える登録者に配信しました。HPのアクセス数は約15万件に達し、前年度と比較して2万5千件増加しました。	A
管理運営事業	1月から3月まで空調機器の改修工事をおこない、順調に終了しました。その他、日常の維持管理業務も順調です。	B

9 都市発展記念館事業

今年度は横浜開港150周年記念事業として、当館の展示テーマの柱である「都市形成」分野から、2つの企画展示を開催したほか、ホームページを利用したWEB展覧会の開催、戦後の横浜を映像で紹介するDVDシリーズの制作・販売など、多くの新規事業を展開しました。

企画普及事業では、開港から戦後までの横浜の近代建築の変遷を、横浜で活躍した建築家たちの人物群像でたどる企画展「横浜建築家列伝」を開催し、大倉精神文化研究所や横浜市緑の協会との共催で、連続講座や山手西洋館でのパネル展示などの関連イベントを実施しました。また埋蔵文化財センター・三殿台考古館との共催で、企画展「西洋館とフランス瓦」を開催し、**近代遺跡とその出土遺物に関する共同調査の成果を公開**しました。

常設展事業では、**当館所蔵の写真誌「横浜グラフ」の掲載写真全点をホームページ上で公開するWEB展覧会を開催**し、これにあわせて掘り出し物コーナーで原本を公開しました。また、当館調査研究員が**テーマ別に解説をおこなうリレー形式の展示解説を新規に実施**しました。

出版事業では、デジタル化の完了した映像資料「かながわニュース」をもとに、**オリジナルDVD「映像でたどる昭和の横浜」シリーズを制作**し、ミュージアムショップのヒット商品となりました。

また、中区主催の開港150周年記念イベント「日本大通りタイムストリート」への参加、旧第一玄関での写真展「昭和9年の横浜」、日本大通り駅コンコースでのパネル展「横浜三塔と日本大通り」など、施設の内外で関連事業を実施しました。

各事業報告

1 資料収集保管事業（寄附行為第4条第1号）

横浜の都市形成の歴史に関する資料を、購入・複製・マイクロ撮影等により収集し、分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、資料の修繕・燻蒸や定期的な環境調査を行いました。

（1）資料収集

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈10件 1, 293点	主な収集資料：映画館パンフレット類、ルドルフ・ポール邸設計青焼図面、タイプライターなど
資料の購入	90件 328点	主な収集資料：久米正雄関係資料（昭和戦前期横浜・鎌倉の商店等からのチラシ類）、オデオン座ウィークリー、清水方建築家屋撮影など
資料の複製収集	3件 93点	主な複製資料：横浜市電（写真）ほか

複製資料の提供	45件 109点	他の博物館や公共機関、出版社などへ当館所蔵資料を画像で提供した。
資料の貸出	2件 3点	他の博物館・資料館での展覧会に当館所蔵資料の貸出をおこなった。

(2) 資料収集実績

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
遺物	- (-)	- (-)	4 (5)	- (-)	4 (5)	1,189 (1,185)
図書	102 (53)	- (-)	- (1)	- (-)	102 (54)	1,869 (1,767)
新聞雑誌	2 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	2 (-)	1,791 (1,789)
文書	2 (-)	- (-)	255 (-)	- (-)	257 (-)	2,819 (2,562)
紙票類	149 (1)	- (-)	26 (52)	- (-)	175 (53)	1,705 (1,530)
写真	2 (-)	84 (-)	995 (146)	- (-)	1,081 (146)	6,630 (5,549)
絵葉書	45 (3)	- (-)	11 (24)	- (-)	56 (27)	2,030 (1,974)
地図	3 (5)	9 (-)	- (5)	- (-)	12 (10)	593 (581)
図面	- (7)	- (-)	2 (-)	- (-)	2 (7)	934 (932)
絵画	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
映像	23 (-)	- (-)	- (-)	- (-)	23 (-)	47 (24)
録音資料	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	167 (167)
電子資料	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	11 (11)
合 計	328 (69)	93 (-)	1,293 (233)	- (-)	1,714 (302)	19,785 (18,071)

※ () 内は、前年度点数。

(3) 資料の保存・管理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	寄贈資料（遠藤於菟愛用トランク、タイプライター、小石川家文書など）の燻蒸処理
環境調査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年6回の環境調査を実施した。

(4) 資料保管施設

保管施設	保 管 資 料
横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館収蔵庫（200㎡）	図書、文書、紙票類、地図、図面、出土遺物などを収蔵
外部倉庫（子安台）	大型家具（昭和初期の置時計・大テーブル他）などを収蔵
外部倉庫（大黒ふ頭）	麻真田関係資料、映像フィルム、未整理資料などを収蔵

(5) 画像資料の公開

横浜市域を描写した明治後期から昭和期の絵葉書のデジタル画像を、ホームページ上で公開。今年度までに横浜市域を描いた絵葉書445点の公開を完了した。また、昭和9年の写真報道誌『横浜グラフ』の画像・解説ラベルの全点公開を「WEB展覧会」という形でおこなった。



絵葉書データベース



WEB展覧会

2 調査研究事業（寄附行為第4条第1号）

「都市形成」「市民の暮らし」「ヨコハマ文化」の三つのテーマに即して、資料調査および整理・研究を行いました。

(1) 基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
近代遺跡調査（4／4年次）	横浜市域における近代遺跡とその出土遺物に関して調査をおこなった。今年度は、これまで未調査であった他機関所蔵のジェラール瓦の調査のほか、ジェラール製の土管と類似した構造をもつ「ストライプ土管」について製造元での調査をおこなった。 成果の一部は、企画展「西洋館とフランス瓦」で公開した。
横浜建築博覧データベース作成に関する調査（3／3年次）	関内・山手地区に建設された建造物の記録を収集し、データベース化した。今年度は横浜市緑の協会と連携して、山手の西洋館を対象とした古写真の収集をおこない、 成果の一部は、山手234番館を会場としたパネル展示で公開した。
昭和戦前期都市横浜における生活・文化史の調査（1／2年次）	1920～30年代横浜の商業施設・娯楽施設の資料を収集・整理・調査し、そのなかに見られる「モダニズム」について検討した。 研究成果は今年度紀要で報告した ほか、次年度企画展「モダン横濱案内」で公開する。
昭和期の写真・映像に関する調査（2／3年次）	映像資料について着実に作業を進め、一部を選別の上、 商品として公開した。 写真資料（『横浜グラフ』）については、他機関所蔵『横浜グラフ』との比較照合調査をおこない、 ニュースレター、ホームページで調査結果を報告した。

(2) 資料の調査整理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
資料の整理	調査研究で収集した資料・データなどの整理をおこなった。 今年度購入した「久米正雄関係資料」は多くの利用が想定されることから、速やかに整理をおこない紀要で目録を公開した。 出土遺物については、第二代横浜駅跡地や山下町23番地での出土遺物の記録化作業を進め、紀要で報告をおこなった。

(3) 研究紀要の発行

書名	発行部数	目的・意図 及び 内容・成果
横浜都市発展記念館 紀要 第6号	1,000部	当館調査研究員による調査研究、資料整理等の成果を公開した。 ・横浜の近代遺跡と出土遺物 その3 ・近代の横浜における都市通勤圏の形成について ・久米正雄関係資料目録

3 常設展事業（寄附行為第4条第2号）

常設展示室の維持管理を行うとともに、「掘り出し物コーナー」を定期的に更新して収蔵資料を紹介し、集客と来館者サービスに努めました。

(1) 常設展示に関する実施事業

項 目	事 業 内 容
展示資料の更新	・「都市形成」「市民の暮らし」ゾーンで現物資料の新規公開 ・掘り出し物コーナーの更新 4/22（水）～「昭和はじめの横浜風景」（絵葉書） 10/24（土）～「昭和9年の横浜～『横浜グラフ』にみる75年前の世相」
展示解説の実施	調査研究員によるリレー形式の展示解説 10/25（日）「モダン都市横浜（その1）」 11/1（日）、15（日）「都市の交通」 11/22（日）「拡張する横浜」 12/6（日）「モダン都市横浜（その2）」

(2) 常設展示観覧者の推移

	有料入館者（人）			無料入館者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者(人)
	大人	小中	計					
21年度	5,975	1,168	7,143	3,973	11,116	64.9%	307日	36
20年度	9,317	1,606	10,923	6,208	17,131	77.5%	303日	57
19年度	14,834	1,533	16,367	5,740	22,107	117.3%	304日	73

4 企画普及事業（寄附行為第4条第2・4・5・6・8号）

開港150周年記念事業として、横浜の都市形成の歴史をより深く理解するための企画展示を実施しました。同時に、市民が横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらえるように、連続講座や街歩きなどの関連イベントを開催しました。

また地域・学校との連携を深めるため、中区との連携講座や中学生職業体験の新規受け入れなどを実施しました。

（1）企画展の実施

展示名／開催期間	観覧料	入館者数	目的・内容
開港150周年記念展示 「横浜建築家列伝」 H21. 4. 25(土)～ H21. 8. 30(日) 会期110日	一般 500円 小中 250円	4,431人 1日あたり 40人	開港 150 周年記念展示として、開港から戦後期までのおよそ 100 年を振り返り、横浜で活躍した内外の建築家たちの人物群像を通して、横浜の近代建築のあゆみを紹介した。 ①展示解説 全6回 参加者132人 ②展示図録「横浜建築家列伝」の発行 1,300部 定価1,500円
企画展「西洋館とフランス瓦ー横浜生まれの近代産業」 H22. 1. 23 (土) ～H22. 5. 9 (日) 21年度中会期58日	一般 500円 小中 250円	1,157人 1日あたり 20人	横浜の多くの西洋館の屋根を彩った西洋瓦（フランス瓦）に焦点をあて、日本で初めてフランス瓦の製造に成功した実業家ジェラルドと、その近代設備を備えた工場を中心に、洋風建築が広がる背景にあった近代産業の姿を紹介した。 ①展示解説 21年度中2回 参加者29人 ②展示図録「西洋館とフランス瓦」の発行 1,500部 定価500円
次年度企画展調査			次年度開催予定の企画展「モダン横浜案内」（仮称）の調査を行った。



企画展「横浜建築家列伝」



企画展「西洋館とフランス瓦」

(2) 企画展示室観覧者の推移

	有料入館者 (人)	無料入館者 (人)	合計 (人)	前年比	開館日数	1日平均 入館者 (人)
21年度	3,417	2,171	5,588	53.3%	168	33
20年度	6,533	3,943	10,476	106.8%	176	60
19年度	7,055	2,750	9,805	76.1%	100	98

※都市発展記念館とユーラシア文化館は企画展示室を共用しており、都市発展記念館は、
18年度・20年度は2回、19年度は1回の企画展示を開催しました。

(3) 講座・講演会・歴史散歩など

事業名称	参加者数	事業内容
夏休み子どもウォーク「ハマの 建築探検 ～見て知って、なる ほど納得！～」	28人	親子で参加する歴史散歩。企画展「横浜建築家列伝」の 関連事業として実施。企画展見学ののち横浜三井物産ビ ル、横浜正金銀行本店本館、象の鼻パークなどを見学し た。 参加費 大人800円、子ども400円 8/2(日) 参加者11人 8/23(日) 参加者17人
大倉山講演会「大倉山記念館の 建築様式と思想」	213人	大倉精神文化研究所との共催事業。市指定文化財の大倉 山記念館の建物をテーマにした連続講演会。企画展「横 浜建築家列伝」の関連事業として実施。 参加費無料 会場：大倉山記念館 5/16(土) 講師：青木祐介 6/20(土) 講師：吉田鋼市氏（横浜国立大学教授） 7/18(土) 講師：平井誠二氏 (大倉精神文化研究所専任研究員)
バスツアー「赤煉瓦ことはじめ ～近代産業遺産をたずねて～」 H22.3.19(金)	40人	企画展「西洋館とフランス瓦」の関連事業として実施。 日本の赤煉瓦に関する近代産業遺産（富岡製糸場、日本 煉瓦製造会社施設）をバスで廻った。 協力：富岡市教育委員会、深谷市教育委員会 参加費 4,000円



夏休み子どもウォーク



バスツアー「赤煉瓦ことはじめ」

(3) その他普及事業

名称／開催日	参加者数	事業内容
150 周年記念イベント 「URANIWA Square」＋ 「日本大通りタイムストリート」 H21.6.6（土）・7（日）	101 人	ユーラシア文化館と共催で中庭でのイベントを開催（6／6）。市民ダンスサークルと協働したダンスは、101 人が参加。6／6，7 の両日は、中区主催のイベント「日本大通りタイムストリート」に参加。ブース「昭和の横浜」を出店し、日本大通り界隈の古写真をパネルで展示した。また、レトロテレビでDVD「映像でたどる昭和の横浜」を上映し、鳥瞰図などの当館オリジナルグッズを販売した。
ジャックまるわかり講座 H21.6.11～6.25 毎木曜日（全3回）	各回 100 人 合計 300 人	中区・横浜開港資料館との共催講座。開港記念会館の歴史をテーマにした連続講座と、ジャックサポーターズガイド（記念会館のボランティアガイド）による建物見学を行った。
パネル展示「華やかなりし時 山手の洋館」 H21.8.13（木） ～ 8.30（日）	3,134 人	横浜市緑の協会との共催事業。企画展「横浜建築家列伝」の関連企画として実施。山手西洋館の歴史をテーマにしたパネル展示。入場無料 会場：山手234番館 8／15（土） トークセッション「居留地における建築家の活躍」 パネラー：水沼淑子氏（関東学院大学教授） 青木祐介 参加費 500円 参加者 30人
シンポジウム「横浜・関東大震災の記憶」 H22.2.13（土）	180 人	横浜市史資料室・横浜開港資料館と共催で実施。 参加費無料 会場：横浜市中心図書館 基調講演 今井清一氏（横浜市立大学名誉教授） 関連報告 松本洋幸、吉田律人、岡田 直 討論 北原糸子氏（立命館大学歴史都市防災センター教授） 寺寄弘康氏（神奈川県立歴史博物館）
パネル展示「『横浜グラフ』～昭和9年の横浜」 H22.3.6（土）～ 5.9（日）		WEB展覧会で公開した『横浜グラフ』の高精細画像をもとに、旧第一玄関・玄関スロープで開催。カメラ映像機器工業会主催のフォトイベント「CP+」との連携企画。
パネル展示「横浜三塔と日本大通り」 H22.3.10（水） ～ 3.21（日）		みなとみらい線利用者に対して当館の周知を図る目的で実施。「横浜三塔」として知られる横浜市開港記念会館・横浜税関・神奈川県庁舎の3つの建物を中心に、大正から昭和はじめの日本大通り界隈の風景をパネルで紹介した。 協力：横浜高速鉄道 会場：日本大通り駅コンコース

(4) 出版事業

項 目	事 業 内 容
ブックレットの刊行準備	横浜の都市形成の歴史、横浜の市民生活・文化を、豊富な図版とともにわかりやすく伝える「図説ハマブックレット」(仮称)シリーズを計画し、次年度の刊行に向けて内容を検討した。 第1弾「地図でたどる横浜の鉄道物語」(予定)
DVDシリーズ「映像でたどる昭和の横浜」の制作	昭和20年代から40年代にかけてのニュース映像をもとに、テーマ別にオリジナルDVDシリーズを制作、販売を開始した。 第1巻「港とまちづくり」 第2巻「都市の交通」 (各500部、価格1,500円)

(5) 学校連携事業

項 目	事 業 内 容
企画展広報	企画展示ごとに、学校向けの展示ガイドを作成して広報をおこなった。今年度は「横浜建築家列伝」の開催と連動して、「 旧横浜市外電話局 」のオリジナルペーパークラフトを作成し、建物解説シートとあわせて、夏休み期間中に館内で配布をおこなった。
「学校の博物館利用研究会」の開催	小学校の教員をメンバーとする「学校の博物館利用研究会」を開催し、当館常設展示や出版物などの学校利用について、議論をおこなった。結果を受けて、教員向けプログラムのひとつとして、当館の刊行物案内を作成して各校に配布した。教員向けの研修会の実施については、次年度にあらためて内容を検討する。
職業体験の受け入れ	中学2年生2名を4日間に渡って受け入れ、資料整理からインターネット広報、展示パネルの作成など、広く博物館活動を体験してもらった。

(6) 広報

項 目	事 業 内 容
印刷物作成	横浜都市発展記念館企画展示ポスター・チラシ 横浜都市発展記念館催し物案内(リーフレット) 館報『ハマ発Newsletter』第12、13号(各10,000部)
優待カードの発行	リピーター誘致のため、オリジナルグッズ割引特典付きの年間パス「EAハマ発カード」の販売を継続した。 年会費 1,500円
その他広報	日本大通り駅改札外掲示板へのポスター掲出 市営地下鉄関内駅改札外掲示板へのポスター掲出 インターネットでの施設案内 テレビ、ラジオ等放送媒体による施設案内TVK「Hi! 横浜情報局」、FMサルースなど) 新聞・雑誌への施設案内掲載(神奈川・朝日・読売・日経)

	タウン情報誌、旅行情報誌、広報誌等への施設案内掲載（「PLANET かながわ」「ヨコハマ文化情報」「ぱど」等） 市内観光案内所、ホテルへのチラシ訪問配布 県外都市旅行代理店への施設説明 県博協開港150周年記念事業参加（「ミュージアム・クイズラリー よこはま2009」等） J R 東日本Suicaラリー参加 フィルムコミッションへの協力による撮影場所としてのPR チャレンジラリー・シートの作成・配布
--	--

5 情報事業（寄附行為第4条第4・5・6号）

インターネット等を利用して、歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
ホームページ運営	新着情報の発信 企画展示案内の更新 館報『ハマ発Newsletter』の全文掲載 ミュージアムショップの案内（刊行物・グッズ）
メールニュース配信	希望者に対してメールニュースの配信を実施した。当館の催し物について担当者がわかりやすく記事を執筆し、情報の羅列ではなく、読みでのある内容とした。 配信数 13号～20号、号外2回
WEB展覧会の開催 H21.10.24（土） ～ H22.3.31（水）	昭和9年の写真報道誌『横浜グラフ』（当館蔵）に貼付されている写真306枚、解説ラベル265点をデジタル化。「昭和9年の横浜～『横浜グラフ』に見る75年前の世相」と題してホームページ上で公開した。
横浜絵葉書データベースの拡充	今年度まで横浜市域を描いた絵葉書445点の公開を完了した。画像には同時代の新聞・雑誌等の史料から抜き書きを添えて、見るだけではなく読んで楽しめるデータベースとした。
ブログでの情報発信	催し物案内や、企画展の見どころ、日常業務などを、各担当者が写真付きでタイムリーにブログで発信した。 記事総数 143件
インターネットによる新着情報発信	ホームページ上で、財団各施設案内をはじめ、展示・催し物・刊行物等の紹介を行った。 都市発展記念館 33, 239件（前年度31,862件）

6 横浜都市発展記念館施設維持事業（寄附行為第4条第7号）

横浜都市発展記念館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
横浜都市発展記念館	施設の維持管理 ・主な修繕：外壁石材の崩落への対応工事を実施 ・収蔵庫系統空調機の不具合対応を引き続き実施 所在地：中区日本大通 1 2

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	「都市形成」「市民の暮らし」「ヨコハマ文化」の三つのテーマにそった資料収集を積極的に行いました。資料の保存管理も環境の調査を定期的に行い実施し適切な保存環境の維持を行いました。	B
調査研究事業	近代遺跡に関する調査研究等4つの分野で調査・研究を行いました。成果は、紀要で報告したほかHPのデータベース、展示解説や、山手の西洋館でのパネル展示に活かしました。	B
常設展事業	常設展示室の維持管理を行ったほか、掘り出し物コーナーで「横浜グラフ」を特別公開し、解説を行いました。観覧者数は、前年度の65%にとどまりました。掘り出し物コーナーの定期的な更新や 展示解説の充実 で新しい情報の発信に努め、魅力ある常設展示になるよう努めました。	D
企画普及事業	開港150周年記念と銘打ち2回の企画展示を開催しました。展示観覧者数は、5,588人と大変厳しい数字でしたが、展示に関連した講演会やパネル展示、子どもワーク、バスツアーは、好評を博しました。今後は、より親しみを持てるテーマ設定に努めていきます。また、ニュース映像をもとに DVDシリーズ「映像でたどる昭和の横浜」 を刊行し好評を博しました。そのほか、旧第一玄関を活用し、「横浜グラフ」の写真展を実施しました。	C
情報事業	HP上で展覧会を実施したほか、絵葉書データベースを拡充しました。ブログによる情報発信も	B

	積極的に行いました。	
管理運営事業	外壁石材の崩落が発生しましたが、所管課と調整のうえ、ただちに防護策を取りました。また、収蔵庫系統空調機の不具合の根本解決に向けた調査・協議を横浜市まちづくり調整局と進めました。施設設備についての日常の維持管理を行いました。	B

10 ユーラシア文化館事業

横浜ユーラシア文化館は、国内外の関連機関と連携し、ユーラシア諸地域の人々や文化の交流に関する調査研究を行い、その成果を展示、出版、講演会、イベントなどを通して公開する施設です。平成21年度は横浜開港150周年を記念し、東西海上交易の歴史を眺望する企画展「ユーラシア3000年 海と陸のシルクロード」を**日本財団の助成を得て開催**しました。関連事業として、コンサート「口琴：音のひろがり」および口琴の特別展示を**埋蔵文化財センターとの連携で実施**しました。さらに、都市発展記念館との共催、中区との連携で行った事業として、当館中庭を活用した**ダンス・ワークショップ**を開催し、**日本大通りでの大掛かりなイベントに参加**しました。各事業において企画から実施まで市民や地域事業者の協力を得ました。

ホームページでは、世界的に貴重な資料であるメソポタミアの楔形文字粘土板文書の検索ページをさらに使いやすくするため解説を増やし、子どもから大人まで広く親しんでいただけるようなコンテンツに発展させました。

各事業報告

1 資料収集保管事業（寄附行為第4条第1号）

ユーラシアの考古・美術・民族・歴史資料および文献等を分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、収蔵庫や展示室を常に適切な状態に保つよう環境検査を行いました。

（1）資料収集・保存

項 目	点 数	事 業 内 容
資料の寄贈・寄託	寄贈 613 点 寄託 0 点	主な収集資料：アフガニスタン、ペルシアの民族資料等、前田潮氏蔵書
資料の購入	0 点	主な収集資料：——
資料のマイクロ化	0 点	主な複製資料：——
資料の複製公開	0 点	
資料貸出	1 点	研究資料として絵図複製を中国国家図書館に貸出。
写真資料の貸出	1 点	カットガラス碗（高校世界史および美術の副読本に掲載）

（2）文献資料の整理

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
バジル・グレイ旧蔵書	書誌データの内容を確認した。 入力件数 810 件
和図書	書誌データの入力を行い、OPAC 公開した。 入力件数 68 件
雑誌	書誌データの入力を行った。 入力件数 65 件

(3) 資料収集実績

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
考古・美術・民族・歴史資料	0 (―)	0 (―)	397 (44)	0 (53)	397 (97)	2994 (2597)
図書	10 (16)	0 (―)	122 (80)	0 (―)	132 (96)	19,598 (19,466)
雑誌	4 (3)	0 (―)	207 (36)	0 (―)	211 (39)	7,727 (7,516)
電子資料	2 (4)	0 (―)	0 (1)	0 (―)	2 (5)	16 (14)
合 計	16 (23)	0 (―)	726 (161)	0 (53)	742 (237)	30,732 (29,990)

※ () 内は、前年度点数。

(4) 資料の保管

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
保存燻蒸処理	資料保全のため、平成 20 年度に受贈した民族資料および書籍の二酸化炭素燻蒸を実施し、収蔵庫へ納めた。
環境検査	虫菌による被害を未然に防ぎ、大気・塵埃・光線等の影響を最小限に抑えるため、年 6 回の環境検査を実施した。

(5) 資料保管施設

保管施設	保 管 資 料
横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館収蔵庫 (200 m ²)	考古・美術・民族・歴史・文献資料を収蔵
外部倉庫 (大黒ふ頭)	図書 (江上文庫の重複本など)、販売用出版物などを収蔵

2 調査研究事業 (寄附行為第 4 条第 1 号)

収集資料の整理や、企画展や講演会の基礎的資料収集のための調査研究・資料整理を行いました。

(1) 基礎的調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
市内にあるユーラシア関連資料の調査 (1 / 1 年次)	市民協働の一環として平成20年度まで2年計画で実施してきた「横浜市内にあるユーラシア関連資料の調査」を継続し、市内にあるユーラシア関連資料を調査した。また、昨年度までに市民から寄贈を受けた資料についても調査を進めた。
企画展示「ユーラシア3000年 海と陸のシルクロード」関連資料の研究 (2 / 2 年次)	市民所蔵の海上交易関連資料、館内外の関連資料および文献資料の調査研究を行い、企画展示の開催に結び付けた。
「ユーラシアの造形」関連資料の研究 (4 / 5 年次)	ラスター彩陶器に関する文献資料を収集し調査を継続した。その成果公開の一環として、 企画展「ユーラシア3000年」においてエジプトのラスター彩陶器 (フスタート遺跡出土、早稲田大学・出光美術館所蔵) を展示することができた。

メソポタミア楔形粘土板文書の研究（7／8年次）	ホームページ上に「ガラスビュー（画像と付帯情報を重ねて見せるコンテンツ）」を公開した（10月）。また、 楔形文字粘土板文書を紹介するページを設けて、検索がさらにわかりやすくなるように工夫した （3月）。あわせて、当館所蔵の書籍から粘土板文書やシュメールに関する文献資料を調査した。
収蔵絵図の調査（1／1年次）	当館所蔵絵図「 ろちようよりうしぞうにいたるていたんよす 自鑑庁至烏斯蔵程站輿圖」の2点目の類品が、北京大学図書館に保管されていることが確認されたため、2007年に次ぐ2度目の当館所蔵絵図の特別公開を実施、研究の進展状況をいち早く市民に公開した。 外部研究者と連携し、特別公開の見学を大学の授業の一環とするなど、若い世代への普及啓発を行うことができた。

3 常設展事業（寄附行為第4条第2号）

常設展示室において、収蔵資料の特別公開、企画展と連動した展示替え、学芸員による解説、各種クイズの実施、および市の広報施策であるテーマ月間に参加することで、常設展示室を積極的に活用しました。

（1）常設展示室での実施事業

項 目	事 業 内 容
展示更新	・特別公開「口琴の広がり」展示開催（6月～1月） ・6月は「フランス月間」に合わせ、ライブラリーでフランス関係の書籍を紹介。 ・「口琴」特別公開に合わせ、ライブラリーで楽器関係書籍紹介。 ・特別公開「自鑑庁至烏斯蔵程站輿図」開催（12/12～27）。会期中2度のギャラリートークを実施。 ・1月より、干支に合わせて、虎をモチーフにした資料を展示。
ミニイベント	6月 フランス月間への参加（歴史紹介） 7月 神奈川県立博物館主催「ミュージアム・クイズラリーよこはま」に協力、企画・実施（～9/1） 1月 ミュージアムで遊ぼう！Part7「クイズラリー 今日から君は名探偵！」を企画・実施（～5/20まで実施） 1月 クイズラリーに関連した収蔵資料（帯鉤）のレプリカ試着コーナーを設置（～3月）

（2）常設展示観覧者の推移

	有料入館者（人）			無料入館者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者（人）
	大人	小中	計					
21年度	5,739	789	6,528	3,839	10,367	63.5%	304日	34
20年度	9,157	1,237	10,394	5,935	16,329	75.5%	303日	54
19年度	14,407	1,371	15,778	5,758	21,635	116.1%	304日	71



特別公開でのギャラリートーク



楔形粘土板文書を紹介する扉ページ

4 企画普及事業（寄附行為第4条第2・4・5・6・8号）

ユーラシア文化館ならではの広い視野で、開港 150 年記念の企画展事業を実施し、関連したクイズやギャラリートーク、コンサートを実施することで市民が国内外の歴史や文化をより身近で興味深く感じられるように工夫しました。ニーズの把握・顧客満足度を高めるためのアンケート調査も継続しました。

（1）企画展の実施

企画展名/開催期間	観覧料	入館者数	目的・意図 及び 内容・成果
企画展「西アジアに迫る～江上波夫のまなざし～」 H21. 1. 24（土）～ 4. 12（日） 21 年度中会期 11 日	一般 500円 小中 250円	419人 1日あたり 38人	館蔵資料を広く公開して館に親しんでもらうとともに、西アジアの文化への理解を深めるため、収蔵資料と遺跡などの写真や映像を展示公開した。
150 周年記念企画展 「ユーラシア 3000 年 海と陸のシルクロード」 H21. 9. 19(土)～ H22. 1. 19(月・祝) 会期 93 日	一般 500円 小中 250円	2,543人 1日あたり 27人	ユーラシア世界の交易を発展させた海上交易に着目。 展示は「海の道」で交易が拡大された東西の陶器を中心に紹介した。 （日本財団助成金導入） ①展覧会図録の出版 1,300 部作成 定価 700 円 売上 181 部 ②ギャラリートーク（会期中の土曜日、予約日） 参加人数 152 人 ③ワークショップ「古代の技法を体験（ガラスとコイン）」（会期中の日曜日）参加人数 57 人 ④コンサート＆ワークショップ「口琴：音のひろがり」（10/11・12）参加人数 224 人
企画展基礎調査			来年度開催予定企画展の基礎調査を行った。



企画展「海と陸のシルクロード」



ワークショップ「古代の技法を体験」

(2) 企画展示室観覧者の推移

	有料入館者 (人)	無料入館者 (人)	合計 (人)	前年比	開館日数	1 日平均 入館者 (人)
21 年度	1,596	1,366	2,962	40.8%	104	28
20 年度	3,944	3,312	7,256	74.0%	175	41
19 年度	7,136	2,668	9,804	309.6%	167	58

※ユーラシア文化館と都市発展記念館は企画展示室を共用しており、ユーラシア文化館は、19年度、20年度は2回、21年度は、1回の企画展示を開催しました。



市民協働ダンス・ワークショップ



市民協働コンサート「口琴：音のひろがり」

(3) 普及啓発

項 目	参加者数	事 業 内 容
常設展関連ギャラリートーク	5～20 人	常設展に対する興味と理解を深めることを目的として展示室内で作品解説を行った。予約日に実施。無料。
企画展・常設展関連アート&グルメ		横浜中華街の店舗とのタイアップ企画。展示と食文化を連携させた広報で相乗効果を図った。
150 周年記念イベント「URANIWA Square」 ＋「日本大通りタイムストリート」	101 人	都市発展記念館と共催で中庭でのイベントを開催 (6/6)。市民ダンスサークルと協働したダンスには、101 人が参加した。 6 日・7 日の両日は、中区主催のイベント「日本大通りタイムストリート」にブース「昭和の横浜」を出店し、日本大通り界隈の古写真をパネルで展示した。
EA ハマ発カード会員のための見学会	4 人	EA ハマ発カード会員の特典として 外部機関と連携し、当館企画展と町田市立博物館企画展「ヨーロッパのガラス」を組み合わせ て見学会を開催した。(12/16)。

(4) 広報出版・情報発信

項 目	事 業 内 容
出版物発行	広報誌「News From EurAsia」11、12号 発行 (各10,000部)

リーフレット類作成	横浜ユーラシア文化館展示チラシ作成・配布 横浜ユーラシア文化館催し物案内作成・配布
優待カードの発行	名称:「E Aハマ発カード」、価格:1500円 リピーター誘致のため、オリジナルグッズ割引特典付きの年間パスを販売した。
その他の広報	中区との連携（英文広報誌に企画展情報を掲載） 日本大通駅改札外掲示板へのポスター掲出 市営地下鉄関内駅改札外掲示板へのポスター掲出 インターネットでの施設案内 当館ホームページ・携帯サイト・メールニュースでの情報配信 新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等マスメディアによる企画展広報 フィルムコミッションに協力し、当館を撮影場所としてPR タウン情報誌、旅情報誌への施設案内掲載 市内観光案内所、ホテルへのチラシ訪問配布 旅行代理店とのタイアップ広報 クイズラリー等による集客 チャレンジラリー シート作成配布 館入口設置ボード等によるショップ商品宣伝 アンケート回答者、イベント参加者へのDMによる集客 フランス月間に参加し、広報でも連携 市内16区（都筑・金沢除く）図書館のデジタルADに情報掲出 放送ライブラリーとの連携広報 企画展来館者に対し近隣飲食店での飲食割引サービス
学校連携事業	中学校（145校）に教員用企画展案内シートを送付（11/20） ハマ・アップに教員用企画展案内シートを配布（11/26） 中学校社会科歴史教科書に沿った企画展案内シート「冬休みの課題」を送付（12/1）

（５）実習生の受け入れ

項 目	事 業 内 容
博物館館務実習の受け入れ	博物館学芸員資格取得を目指す「博物館実習」受講生を受け入れ、指導を行った。 期間：６月～１０月にかけて４回実施 受入数：８人（各回２名）
中学生職業体験の受け入れ	博物館での職業体験を希望する中学２年生を受け入れ、資料整理、広報活動、パネル作成などを体験してもらった。 期間：９月８日～１１日 受入人数：２人

5 情報事業（寄附行為第4条第4・5・6号）

インターネット等を利用して、調査研究・展示・出版・講演会・ミュージアムショップなどに関する情報を提供するために、データの更新等を行い、情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項 目	事 業 内 容
簡易検索端末・文献検索端末	資料：常設展示室に設置された端末で主な展示資料の検索が可能。
	文献：館蔵文献の OPAC を公開することで、館外からのインターネット検索を可能にした。
メールニュースの配信	希望者に対するメールニュースの配信を行った。
インターネットによる情報公開	財団開設のホームページ上で、財団各施設案内をはじめ、展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料・図書文献資料等の紹介を行った。 アクセス件数 合計 42,114 件（前年度 45,147 件）

6 ユーラシア文化館施設維持事業（寄附行為第4条第7号）

横浜ユーラシア文化館の維持管理及び運営を行いました。

管理対象施設	事業内容・所在地など
横浜ユーラシア文化館	施設の維持管理 ・主な修繕：外壁石材の崩落への対応工事を実施 ・収蔵庫系統空調機の不具合対応を引き続き実施 所在地：中区日本大通 12

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	数百点の資料・文献を受贈しコレクションを拡充しました。良好な保管状態を維持するため、定期的な環境検査を行いました。	B
調査研究事業	企画展や講演会の基礎準備ため、国内外の関連機関と連携して調査研究を行い、最新の成果を様々な手段で公開しました。	B
常設展事業	常設展示室の維持管理を行いました。資料の特別公開、企画展と連動した展示替え、学芸員による解説、他館と連携した各種クイズの実施、市のテーマ月間への参加などで、常設展示室を積極的に活用するとの当初目標を果たしましたが、展示観覧者は、前年度の 65%にとどまりました。	D

企画普及事業	ユーラシア文化館ならではの国際的な視野で、開港 150 年記念の企画普及事業を実施し、市民が国内外の歴史や文化をより身近に感じてもらえるように工夫しました。本年度は、フランスブルターニュ地方のダンスワークショップや、ロシアトウバ共和国等の口琴演奏家によるコンサートを行いました。各事業は市民と協働して実施し、地域事業者の協力を得て賑いの創出に努めました。ニーズの把握・顧客満足度を高めるためのアンケート調査も継続しました。企画展示の入館者については、約 3,000 人と厳しい状況でした。観覧者の満足度は大変高いことから、潜在的ニーズを掘り起こし来館を促す戦略的方策の取り組みをおこなっていきます。	C
情報事業	HP を頻繁に更新し、個々の希望者にはメールニュースも配信しました。企画展開催数が前年の 1/2 であったため HP アクセス件数は減少しましたが、楔形文字、民族衣装など、具体的な資料名でのアクセスが増加しており、収蔵資料への興味が高まっていることを示しています。	B
管理運営事業	外壁石材の崩落が発生しましたが、所管課と調整のうえ、ただちに防護策を取りました。また、収蔵庫系統空調機の不具合の根本解決に向けた調査・協議を横浜市まちづくり調整局と進めました。施設設備についての日常の維持管理を行いました。	B

1 1 三殿台考古館事業

国指定史跡である三殿台遺跡への理解を一層深めるとともに、施設の特徴を発揮し、地域や市民により親しまれる施設を目指し、各種事業に取り組みました。

常設展示では、職員による学校団体などへの展示室の解説を行うと共に、管理棟事務所2階で公開した北側貝塚の剥ぎ取り資料の解説も実施しました。また、常設展示室リニューアルに向けて展示検討会の開催や、準備作業の一環として、保管する出土遺物の整理・分類、土器の復元作業を行いました。

企画普及事業では、火起こし体験や勾玉作り、土器作り・土偶づくり教室、勾玉・拓本教室、キャンプ in 三殿台等を継続実施すると共に、学校や地域住民が行う行事への職員派遣も積極的に行い連携を図りました。市民協働としては、市民ボランティアスタッフによる収蔵遺物の再整理を行うと共に、**新規事業として、常設展示・遺跡のボランティアによるガイドを実施しました。**

管理運営面では、事務棟・展示棟・竪穴住居保護棟・復元住居・擬木遺構の維持管理を適切に実施しました。

これらの事業を通して施設の有効利用と認知度・顧客満足度が高まり入場者数も大幅に増加しました。今後も職員が知恵を絞り、他施設、近隣学校などとの連携や市民協働による普及活動を継続していきます。

各事業報告

1 資料収集・保管事業（寄附行為第4条第3号）

三殿台考古館保管の考古資料について整理・分類及び展示中の遺物の補修・着彩等を行い、資料の保全を図りました。また適切な保管を実施しました。

（1）資料の整理、復元等

項 目	事 業 内 容
土器の接合・復元及び現展示品の補修。古図面等の整理。図書資料の受入れ。	・三殿台考古館保管の遺物を整理・分類する。土器の接合・復元及び現在展示されている資料の補修を行う。 - 復元した土器の個体数 10個体 - 補修した展示品の個体数 3個体 ・保管される古図面・古地図類の分類整理・収納を行った。 ・寄贈された図書の整理分類し受入れを行った。

(2) 資料保管施設

項 目	事 業 内 容
三殿台考古館収蔵庫 (86.2 m ²)	三殿台遺跡及び市内主要遺跡出土の考古資料の保管 遺物を遺跡ごとに整理・分類したものを、収蔵庫及び3個の倉庫に収納した。

2 常設展事業（寄附行為第4条第2号）

常設展示室の維持管理を行うとともに、常設展示リニューアルに向けての展示検討会を実施しました。展示資料の復元を行いました。北側貝塚の剥ぎ取り資料の展示及び解説を行いました。

(1) 遺跡案内・展示解説の実施

項 目	事 業 内 容
遺跡案内・展示解説の実施	団体および一般来館者見学時に、遺跡・遺物展示棟・貝塚剥ぎ取りについて遺跡案内と展示解説を行った。 学校団体 3, 146人 一般・団体：1, 709人

3 企画普及事業（寄附行為第4条第2・4・5・6・8号）

市民や来訪者に遺跡への理解を深めてもらえるように、展示解説や体験学習を開催し生涯学習活動を支援しました。また、施設の有効利用と認知度・顧客満足度を高めるための事業を実施しました。

(1) 普及啓発

項 目	参加人数	事 業 内 容
体験教室の開催	733人	随時受け付けている火起こし・勾玉作り体験を開催した。 ・火起こし 519人、参加料 100円 ・勾玉作り 214人、参加料 300円
夏休み体験教室 火起こし H21.7.4～8.22 毎土曜 全6回	59人	小学生の親子を中心に、火起こしの起源や方法などを解説しながら、楽しみながら歴史にふれられる教室を開催した。 参加料：100円
夏休み体験教室 勾玉作り H21.7.5～8.30 毎日曜 全6回	166人	小学生の親子を中心に、勾玉作りをとおして、楽しみながら歴史にふれられる教室を開催した。 参加料：300円
キャンプ in 三殿台 H21.7.25（土）・26（日）	8家族 26人	小学生とその親を対象に遺跡の住居跡で、火起こしや遺跡解説、原始・古代のお話しなど、宿泊する体験教室を行った。 参加者：8家族26人 参加料：テント一張り 2,000円
土器作り教室 H21.9.27（日）～11.14（土） H22.1.17（日）～3.8（月）	27人	土器作り教室を秋・冬の2回開催した。 参加料：2,000円

「私たちが作った土器」展 の開催 H21. 11. 21 (土) ～12. 6 (日) H22. 3. 13 (土) ～28 (日)	1,463 人	土器作り教室の様子をパネルと作品で紹介する展覧会。秋と冬2回開催した。
土偶作り教室 H21. 7. 19 (土) ・20 (日)	37 人	小学生（親子可）を対象に土偶作りを行った。 参加料：300 円
勾玉・拓本教室 H21. 10. 25 (日)、12. 20 (日)、2. 28 (月)	39 人	大人から子供までを対象に勾玉づくりと土器の文様を写し取る拓本の体験を行った。 参加料：400 円

(2) 学校・地域連携

項 目	参加人数	事 業 内 容
学校団体見学・一般団体 見学受入れ	4,855 人	学校及び一般団体の受入れを行った。 学校団体 48 団体 3,146 人 一般団体 58 団体 1,709 人
岡村小学校地域交流クラブ	22 人	地域交流クラブの「昔しらベクラブ」で、講師を務めた。 5/19 (水) ～11/24 (水) 全8回
火起こし指導	72 人	上大岡小学校で火起こしの指導をした。6/26 (土)
土器作り協力 H21. 10. 22～12. 22	310 人	10/22、11/22、12/4 上大岡小学校 全3回 10/24・29、12/22 岡村小学校 全3回 土器作りに協力した。
サマースクール支援	47 人	サマースクール活動支援で、講師を務めた。 7/29・30 上大岡小 参加者：35 人 7/30 磯子小学校 参加者：8 人
遺跡解説	31 人	上大岡小学校6年生に遺跡解説を行った。
社会体験研修の受け入れ H21. 8 月	1 人	小学校新任教員の社会体験に協力した。 鶴見総合高校教員 1 人
博物館実習の受け入れ H21. 8 月	1 人	大学の博物館実習生を受け入れた。
高校生の整理体験 H21. 8 月	1 人	大学受験のため高校生の整理体験を受け入れた。

(3) 市民協働事業

項 目	事 業 内 容
北側貝塚遺物の水洗い・注記・ 土器の接合・復元、実測の実施	遺物整理ボランティアの手で、北側貝塚遺物の水洗い・注記・土器の接合・復元、実測を実施。復元は20個体。延べ589人が参加した。
遺跡ガイドボランティアによる 遺跡ガイドの実施	遺跡ガイドボランティアによる遺跡ガイドを実施した。延べ110人が活動し、1,187人をガイドした。

開港１５０周年記念事業「さんとの大コンサート」 H21.6.21（日）	開港１５０周年記念事業として、和太鼓や土笛奏者による演奏会を開催した。会場は岡村小学校を使用し、小学校・地域住民と協働した。参加者：６２人
-------------------------------------	---



さんとの大コンサート



土偶作り教室

(４) 広報出版

項 目	事 業 内 容
チラシ類の作成	埋蔵文化財センター・横浜市歴史博物館との連携で「よこはま古代人ワールド」チラシを作成 年間事業チラシ・土器づくり教室等のチラシを作成
報告書の刊行	遺物整理の成果として『三殿台遺跡北側貝塚の調査』８４頁を刊行し、関係機関に配布した。
その他広報	インターネットによる情報提供 一般新聞・雑誌等への広報掲載による広報 市報の区版への情報提供 FM放送への情報提供

４ 三殿台考古館施設維持事業（寄附行為第４条第７号）

三殿台考古館の管理運営を行いました。

(１) 自動販売機の設置

(２) 記念品缶バッジの作成及び販売 ６，０００個作成 販売価格１個１００円

２１年度売上 １，１０４個 １０３，６００円

５０周年記念セット １００個 ５０，０００円

(３) 土器片ペンダントの販売 販売価格１個 ７００円

２１年度売上 １７個 １１，９００円

(４) 三殿台考古館の維持管理

管理対象施設等	事業内容・所在地など
三殿台考古館	事務棟管理 所在地：磯子区岡村四丁目 主な修繕：事務所棟屋根雨漏り修繕

三殿台遺跡	国指定史跡「三殿台遺跡」の管理 展示棟・竪穴住居保護棟・復元住居・擬木遺構の維持管理 主な修繕：竪穴住居保護棟屋根雨漏り修繕
-------	--

(4) 三殿台考古館施設入場者の推移

項 目	平成21年度	平成20年度	平成19年度
横浜市三殿台考古館（人）	18,596	17,725	15,225

(5) 三殿台考古館施設自動販売機売り上げの推移

項 目	平成21年度	平成20年度	平成19年度
横浜市三殿台考古館（円）	37,142	43,048	32,032

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集・保管事業	三殿台考古館保管の遺物を整理・分類するとともに、土器の接合・復元及び現在展示されている資料の補修を行いました。10個体を復元し、現展示品3個体の修復を完了しました。また保管される古図面・古地図類の分類整理・収納を行うとともに、寄贈された図書を整理分類し受入れを行いました。	B
常設展事業	常設展示室の維持管理を行うとともに、学校団体などの見学者に展示解説を実施しました。また、管理事務所2階を常設・収蔵品展示室として、当遺跡の北側貝塚の剥ぎ取り資料の展示と解説を継続して実施しました。常設展示棟では土器作り教室で制作した土器の紹介展示を実施しました。 入場者数は前年比5%の増加となりました。	A
企画普及事業	年間を通して各種体験学習を実施しました。また、学校との連携や地域支援にも講師を派遣するなど積極的に関わりました。 市民協働としては遺物整理ボランティアの活動に延589人が参加しています。本年度より遺跡ガイドボランティアが活動を始め延べ110人が活動し、1,187人をガイドするなど成果を上げています。 さらには、博物館館務実習、小学校新任教員の体験研修等の受入れも行いました。 ボランティア活動の成果が盛り込まれた『三殿台遺跡北側貝塚の調査』が発刊され、調査研究の成果とし	A

	て公開されました。各種事業は参加者の満足度も高く、好評を得ました。	
管理運営事業	遺跡内の事務棟・展示棟・竪穴住居址保護棟・復元住居・擬木遺構、芝生・樹木等の維持管理を適切に行いました。遺跡内の芝生の刈り込みや、トイレ清掃等については職員が行うなど経費の節減に努めました。自動販売機の売り上げは前年比14%の減となりましたが、 記念品用缶バッジや縄文ペンダント等の売り上げは19%の増加をみています。	A

特 別 会 計 事 業

財団の自主性・自立性を高めるため、収益事業を実施しました。

本年度は、横浜市の指定管理者として4年目になり、歴史博物館、開港資料館、都市発展記念館、ユーラシア文化館の各施設へ来館されるお客様により快適にお過ごしいただけるよう、ミュージアムショップ商品の見直しや特別セールの実施、自動販売機の設置などの事業を行いました。また開港150周年にちなんだ書籍・グッズを販売し、積極的に収益の向上に努めました。

今後はミュージアムショップ事業のさらなる魅力向上に積極的に取り組み、運営の効率化と収益の向上に努めていきます。

各事業報告

1 歴史博物館収益事業

1 歴史博物館収益事業（寄附行為第4条第8号）

（1）ミュージアムショップの経営

- ① 勾玉キット、火打石、絵葉書、ミニタオル、企画展図録等を販売した。
- ② 企画展・イベントにあわせた商品をそろえ、開館記念日の特別セールを実施した。
- ③ オリジナル商品を開発した。

（2）来館者駐車場の経営

（3）自動販売機（5台）の設置

2 開港資料館収益事業

1 開港資料館収益事業（寄附行為第4条第8号）

（1）ミュージアムショップの経営

絵葉書、バンダナ、ミニタオル、関連書籍等を販売した。

（2）自動販売機（1台）の設置

（3）喫茶室の委託

来館者サービスとして附属棟において、喫茶室の営業を実施した。

店名：A u j a r d i n d e P e r r y（ペリーの庭で）

3 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業

1 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業（寄附行為第4条第8号）

（1）ミュージアムショップの経営

- ① 絵葉書、アートクリップ、企画展図録等を販売した。
- ② 吉田初三郎鳥瞰図２種、よい子の交通双六、円筒印章アクセサリなど、新商品を開発した。
- ③ 各企画展、フランス月間、アジアンウェーブ等に合わせ、商品のライナップを大幅に変え、ショップの「目新しさ」を保つよう努めた。

(2) 自動販売機（１台）の設置

＜各事業の推移＞

(1) ミュージアムショップ売上の推移

項 目	平成２１年度	平成２０年度	平成１９年度
横浜市歴史博物館（千円）	９，２９６	８，９９９	９，３８４
横浜開港資料館（千円）	１０，５７１	１０，５５５	７，７３３
横浜都市発展記念館 横浜ユーラシア文化館（千円）	７，０２５	７，５４２	７，１５８

(2) 駐車場の経営

歴史博物館の来館者用駐車場を経営しました。（館内３２台、屋外１４０台）

項 目	平成２１年度	平成２０年度	平成１９年度
利 用 台 数（台）	６，７７９	７，３４１	９，５５７
月あたり利用台数（台/月）	５６５	６１２	７９６
料 金 収 入（千円）	２，６８４	３，０１４	３，８５０

(3) 自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、各館に自動販売機を設置しました。

項 目	平成２１年度	平成２０年度	平成１９年度
横浜市歴史博物館（千円）	４５９	４３０	４５９
横浜開港資料館（千円）	１５７	１０７	１０６
横浜都市発展記念館 横浜ユーラシア文化館（千円）	８２	８６	８１

(4) 喫茶室の委託

施設利用者の利便を図るため、開港資料館附属棟において、喫茶室を営業しました。

項 目	平成２１年度	平成２０年度	平成１９年度
喫茶室委託料収入（千円）	２，２２９	２，２０５	２，３５３

事業別評価

事業名称	実施概要	評価
歴史博物館事業	前年に対して、来館者数の減少に対して、売上は微増した。駐車場利用の落ち込みについては、周囲のショッピングモール駐車場の拡充などの影響があると思われ、今後の対応が必要である。	B
開港資料館事業	開港 1 5 0 周年関連商品の売上が好調だったことなどの要因により、空調機器全面改修工事でショップの店頭販売が 1 2 月までであったにもかかわらず、売上は前年度を超えた。(前年同期比 1 3 5 %)	S
都市発展記念館・ユーラシア文化館事業	来館者の減少に伴い、前年に対して売上総額は減少したが、都市発展記念館制作DVD「映像でたどる昭和の横浜」(1 巻、2 巻)が好評で売上は顕著であった。	C

<参考> 主な事業実績指標の推移

項 目			単位	平成21年度	平成20年度	平成19年度	平成18年度	平成17年度
埋蔵文化財センター								
	港北ニュータウン文化財整備	遺跡整理数	件	4	4	4	4	4
		報告書刊行数	件	1	1	1	1	1
	発掘受託	確認調査数	件	2	3	0	1	0
		本格調査数	件	0	1	2	0	3
		報告書刊行数	件	2	0	2	0	4
	講座講演会	参加者数	人	614	735	539	691	345
	体験学習	参加者数	人	388	262	136	—	—
諸施設利用								
八聖殿資料館利用者数			人	10,238	9,366	8,009	8,095	8,103
横浜市歴史博物館								
	利用者数（注2）	館内施設総数	人	218,076	231,167	232,339	283,694	204,321
		野外施設総数	人	63,315	61,701	59,835	63,654	65,424
	企画展	観覧者数	人	48,891	54,649	56,324	76,990	49,785
		1日あたり数	人	205	235	251	328	217
		有料観覧者数	人	10,700	14,790	19,900	30,671	14,504
	常設展	観覧者数	人	74,045	76,478	76,080	90,567	70,478
		1日あたり数	人	238	246	246	293	230
		有料観覧者数	人	25,430	29,603	31,837	39,422	27,798
	閲覧室	利用者数	人	7,520	8,131	9,774	10,569	10,363
	講座講演会	参加者数	人	6,094	4,069	5,511	7,198	1,588
	体験学習	参加者数	人	1,963	1,627	1,650	2,819	1,459
	学校利用	学校数	校	393	452	425	506	438
		参加者数	人	38,132	41,639	37,695	44,741	38,220
横浜開港資料館（注1）								
	資料収集	収集点数	点	799	885	1,753	7,582	3,994
		累計点数	点	251,876	251,077	250,192	248,439	240,857
	展示	観覧者数	人	71,691	68,990	59,664	58,855	48,249
		1日あたり数	人	312	228	198	195	161
		有料観覧者数	人	50,867	50,858	44,076	43,712	35,624
	閲覧室	利用者数	人	3,196	3,873	3,614	2,921	2,304
	講座講演会	参加者数	人	1,988	543	884	764	146
横浜都市発展記念館								
	企画展	観覧者数	人	5,588	10,476	9,805	12,891	3,180
		1日あたり数	人	33	60	98	85	32
		有料観覧者数	人	3,417	6,533	7,055	7,579	1,915
	常設展	観覧者数	人	11,116	17,131	22,107	18,839	16,471
		1日あたり数	人	36	57	73	62	55
		有料観覧者数	人	7,143	10,923	16,367	11,691	11,270
	講座講演会	参加者数	人	692	472	114	308	57
横浜ユーラシア文化館								
	企画展	観覧者数	人	2,962	7,256	9,804	3,167	10,137
		1日あたり数	人	29	42	59	36	81
		有料観覧者数	人	1,596	3,944	7,136	1,722	6,976
	常設展	観覧者数	人	10,367	16,329	21,635	18,631	14,758
		1日あたり数	人	34	54	71	61	49
		有料観覧者数	人	6,528	10,394	15,778	11,587	9,827
	講座講演会	参加者数	人	534	726	300	388	—
三殿台考古館								
三殿台考古館利用者数			人	18,596	17,725	15,225	16,178	15,350
収益事業								
	ショップ収入		千円	26,892	27,096	24,275	23,839	19,186
	駐車場収入		千円	2,684	3,014	3,850	4,939	3,789

(注1) 開港資料館は12/28～4/9まで空調機器全面改修工事のため休館。

(注2) 平成17年度から、都筑民家園が横浜市環境創造局へ移管。